

年 報
ひたちの

平成 24 年度

公益社団法人 茨城県理学療法士会

目次

1.	平成24年度総括報告	P.1
2.	平成24年度茨城県理学療法士会表彰	P.2
3.	平成24年度活動報告	P.3
5月	第64回春季関東地区高校野球茨城大会メディカルサポート	P.3
	第38回定期総会	P.3
	第1～3回研修会	P.4
	新入オリエンテーション	P.5
	平成24年度高等学校進路指導担当者会議	P.6
6月	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士進路指導説明会	P.7
	第4～10回研修会	P.7
	新人歓迎会	P.12
	高校野球メディカルサポート派遣会員研修	P.13
	作文コンクールに関するラジオ広報	P.14
	第1回茨城県臨床実習連絡協議会	P.15
7月	北茨城市での保健活動	P.16
	第94回全国高校野球選手権茨城大会メディカルサポート	P.17
8月	理学療法・作業療法・言語聴覚療法見学会	P.18
9月	介護予防キャラバン in 古河ふれあい広場 2012	P.18
	第1回茨城県看護協会「まちの保健室」との共同事業	P.19
	第31回関東甲信越ブロック理学療法士学会	P.20
	理学療法士講習会基本編	P.22
10月	第64回秋季関東地区高校野球茨城大会メディカルサポート	P.23
	第11・12回研修会	P.23
	北茨城市での保健活動	P.25
	介護予防キャラバン in 常総市「ふくし祭り」	P.26
	介護予防キャラバン in 結城市「祭りゆうき 2012」	P.27
11月	「介護の日」パネル展示	P.29

	第2回茨城県看護協会「まちの保健室」との共同事業	
	～第37回水戸市産業祭～	P.29
	介護予防キャラバン	
	介護予防キャラバン in 筑西市「みんなの生活展」	P.31
	国体参画に向けた打ち合わせ会	P.32
12月	第16回茨城県理学療法士学会	P.32
	「理学療法の日」作文コンクール表彰式	P.37
	第1回市民公開講座	P.37
	介護予防キャラバン in 水戸	P.38
	学会懇親会・忘年会	P.39
1月	理学療法士講習会応用編	P.40
	第3回茨城県看護協会「まちの保健室」との共同事業	P.40
	茨城県地域支え合い体制づくり事業説明会	P.41
	第2回茨城県臨床実習連絡協議会	P.42
2月	茨城県臨床実習指導者研修会	P.42
	第2回賛助会員等との意見交換会	P.42
3月	介護予防フェスティバル in 北茨城 2013	
	第2回市民公開講座	P.43
	茨城県訪問リハビリテーション実務者研修会	P.44
	第39回定期総会	P.45
	第13、14回研修会	P.45
	その他の事業	P.47
4.	2012年度 会員動向	P.52
5.	平成24年度役員・局長・部長・委員長・代議員名簿	P.54
6.	茨城県下の理学療法士勤務先一覧	P.55
7.	賛助会員一覧・広告	P.59

平成24年度総括報告



公益社団法人 茨城県理学療法士会
第9代会長 齊藤秀之
(筑波記念病院)

日頃より、皆様には公益社団法人茨城県理学療法士会の活動に尽きまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

従前からの事業は概ね円滑に実施できたと考えている。そこで、会長就任時に提示した「会長マスタープラン2011」の自己評価を理事会で審議した。「事務局事業」「社会・職能局事業」「広報局事業」および「特定事業局事業」は評価できる到達レベルであった。特筆すべきは、社会・職能局事業として進めている地区（圏域）ブロックの組織化活動と、介護予防キャラバンの拡充と介護予防フェスティバルin北茨城の大成功である。また、茨城県保健衛生会館内（水戸市）に専用の本会事務所を移転し、本会職員として専任事務所職員の雇用をついに実現できたことも大きな成果である。専用事務所の利点を最大限活用した士会活動に移行するまでには、混乱は避けられないが、会員諸氏のご理解をお願いしたい。一方、新人会員が200人、会員数1500人となった学術団体として「学術・教育局事業」の達成度は十分とは言い難かった。したがって、今期の重点項目は「学術・教育事業」であり、その「学術・教育事業」の充実のためには、「事務局機能の強化」、すなわち事務所職員への業務（権限）移譲とともに、局・部と地区ブロックとの連携と分化による士会事業の執行が必要と考える。このことは、その他の事業を含め「公益社団法人」として確固たる団体となるためには必要要件と考える。

役員・職員はじめ士会員全員が「県民の健康に寄与する」大人の職能団体として活動することを理念として、団体としての統治機構を適正に実施する公益社団法人への移行認可申請に向けて昨年度は執行部が一丸となって運営を行った。9月に移行申請し、3月に移行認定を受け、4月1日で登記を完了した。この間、2役会・拡大2役会・理事会という構成で運営したが、これまでの長年にわたる一体的な理事会の運営との相違について、執行部内で理解が十分であったとは言い難く、また、担当者の交代に伴う業務引き継ぎも十分とは言い難く、課題を残した運営となった。今年度については、この反省を踏まえた上で、執行部が一丸となれる組織運営を行っていく。

平成24年度茨城県地域支え合い体制づくり事業費補助金の交付を受けることができた。この事業の1つとして、協会が推奨している「地域自立支援センター」を北茨城市立総合病院内に本会立の「北茨城地域自立支援センター」として開設し、会員の午後常駐化を開始した。今後は、

地域包括ケアシステムにおける地域ケア会議への参画と訪問リハビリテーション活動の実施を目標に、今まで以上に北茨城市・地区医師会と連携を密にしながら、作業療法士会・言語聴覚士会と歩調を合わせて、活動していくことが必要となる。他方、本会立の「訪問リハビリテーションサポートセンター」も開設した。専用携帯電話回線を開設し、利用者・家族等の県民や事業所・専門家からの相談を受けられる体制を構築した。今後は、ネットワーク化する中核施設群と県内ブランチ施設との連携や活動内容など課題は山積しているが、執行部一丸となって推進していきたい。

数年かけて行ってきた、茨城県への本会の職能団体としての認知度の向上は、事務所移転・事務職員雇用や県補助事業受託などを通じて推進したと思われる。この評価を確固たるものにするためには、執行部はもとより会員の意識改革が必要であることを痛感した1年であった。

平成24年度茨城県理学療法士会表彰

【茨城県理学療法士会 功績賞】

水上 昌文 氏	茨城県立医療大学
伊藤 ひとみ 氏	自宅
小林 和彦 氏	筑波技術大学
竹本 一仁 氏	龍ヶ崎済生会病院
佐藤 正一 氏	水戸メディカルカレッジ
相田 衣子 氏	茨城県立こども福祉医療センター
山本 泰三 氏	JA とりで総合医療センター
石井 篤 氏	宮本病院

【茨城県理学療法士会 功労賞】

沼尻 一哉 氏	茨城西南医療センター病院
---------	--------------

【第16回 茨城県理学療法士学会 学会賞】

西潟 亘 氏	介護老人保健施設サン・テレーズ
--------	-----------------



受賞者代表挨拶：小林和彦 氏

平成24年度活動報告

May

5、6日

第64回春季関東地区高校野球茨城大会 メディカルサポート

準決勝 5月5日(土) 水戸市民球場 古田英二郎氏、松本正孝氏
決勝 5月6日(日) 水戸市民球場 田中直樹氏、金子哲氏

地域医療福祉推進部長 所圭吾(茨城県理学療法士会)

春の大会は最後の夏の大会の前哨戦でもあり、また夏までの期間も短いため、よりメディカルサポートは重要になります。今回目立った障害のある選手はいませんでした。今後もよりよいサポートができるよう研鑽するとともに、選手の日常に還元できるような体制作りにも取り組んでいきたいと思っております。

20日

第38回定期総会

会報編集部 鈴木理絵(茨城西南医療センター病院)

2012年5月20日につくば国際大学で社団法人茨城県理学療法士会第38回定期総会が開催されました。社団法人茨城県理学療法士会正会員数1,358名、定足数679に対し、総会出席者数81名、委任状676名の計757名で審議を行いました。

審議事項は、①平成23年度事業報告、②平成23年度収支決算、③平成23年度監査報告、④公益社団法人茨城県理学療法士会定款改正第2次修正/付帯決議、⑤役員報酬規程の5項目であり、すべて承認されました。

今回の定期総会では公益社団法人に関する説明や、本会の今後の展望などについての説明・意見交換が行え、興味深く聞くことができました。



第 1～3回研修会

場所：つくば国際大学

第 1 回テーマ：『フットケア』

講師：瀧原純先生（土浦協同病院）

受講者数：284 名

長谷川大悟（特別養護老人ホーム サンフラワーひたちなか）



平成 24 年度第 1 回の研修テーマは『フットケア』についての講演でした。

内容は、①フットケアについて、②糖尿病性足病変について、③フットケア外来の現状と課題、④地域における活動でした。

本講義で、フットケアを理学療法士は糖尿病足病変予防という点で貢献が可能であると同時に他職種との連携も必要である事を改めて学ぶ事が出来ました。また、地域における

活動に関して、地域住民が足に意識を向け、足病変予防に役立てられる活動を行っている実際の様子を知ることが出来、大変貴重な研修となりました。

第 2 回テーマ：『肩関節運動機能障害の機能評価～治療のてがかりを見出すために～』

講師：田村耕一郎先生（広瀬医院）

受講者数：342 名

相樂末由樹（いちほら病院）



5 月 20 日、つくば国際大学で開催されました平成 24 年度第 2 回研修会に参加しました。今回は田村耕一郎先生を講師にお迎えし、「肩関節運動機能障害の機能評価～治療のてがかりを見出すために～」というテーマで私たち新入職員のためになるよう主に基本的な内容からご講演いただきました。

私を含め今年から理学療法士となった者にとって、肩関節疾患はあまり経験したことがない病態であり、とても興味深く感じました。

肩関節疾患の主な症状である、疼痛・可動域制限・不安定性についてその症状から原因として何が予測されるか、その予測を確認するためにはどんなところに目を向ければ良いのか、そして治療に結びつけるためのポイントをわかりやすく、丁寧に、肩関節の解剖を含

めながらご説明して頂き、評価から治療へのつながりを考えることができました。また、肩関節だけでなく、肩甲上腕リズムや肩甲胸郭関節、体幹の機能も肩関節に影響を与えるため、不安定性の見方やアライメントについても説明して頂き、局所だけでなく全体をみることの大切さも学ぶことが出来ました。

何のためにその評価を行い、そこから何が言えるのか、そしてどう治療につなげるのかを頭でしっかりと整理しながら理学療法を展開していきたいと思います。

第3回テーマ：『心臓血管外科疾患と理学療法』

講師：末松義弘先生（筑波記念病院 心臓血管外科統括部長 医師）

受講者数：217名



高山太輔（鹿島病院）

私は回復期病棟に勤務しております。心臓手術後のリハビリテーションを必要とする患者様は少ないですが、脳卒中患者、高齢者の患者様と心疾患を合併する方は多数いらっしゃいます。

今回の講義では心臓外科手術の適応疾患とその病態について主に勉強させて頂きました。

臨床において私は脳卒中患者様を主に担当させて頂いておりますが、心疾患・循環器疾

患に起因している事を考えると心疾患の病態を把握し、知識を整理する事により、心疾患に対するリスク、またその事から起因する再梗塞、再出血のリスクの予測、管理の重要性を再確認させて頂きました。

例えば人工置換術後のワーファリン投与による脳出血のリスク、また虫歯・抜歯から感染性心内膜炎を発症する可能性があり、心臓弁の破壊に発展する事など、実際に病棟生活を送る患者様のADLに介入する上で有意義ですぐに実践可能な知識を頂きました。

今後心疾患を合併する、また高齢者でバイタルサインの不安定な患者様に介入する際、今回勉強した知識を更に深め、患者様に還元していきたいと考えております。

新入オリエンテーション

江幡さつき（いちほら病院）

5月20日、つくば国際大学にて「平成24年度 新入オリエンテーション」が行われました。今春理学療法士となった私は少し緊張する中参加しました。

茨城県理学療法士会の会長である斉藤先生から、茨城県理学療法士協会の側面や理学療法士である自分たちの身分や処遇を守るため政治的活動の必要性についてお話がありました。

た。また、大曾根先生から茨城県理学療法士会の活動について、会員向け以外にも市民公開講座や介護予防キャラバン、まちの保健室などの活動について紹介頂きました。

学生時代は政治的活動と理学療法士の仕事の結びつきを考える機会があまりありませんでしたが、働く上で必要な知識であるということ、その活動の一端を私たちが担うことの重要性を実感いたしました。また、地域の中で理学療法士が果たせる務めや役割など、私たちが知るべきことは学問だけでなく多岐に渡ることを学びました。

私たち新人職員は、目の前の仕事で手一杯であるのが現状ですが、協会、士会、連盟の活動を知ることによって私たちが今後どのように考え、動くべきなのか認識することが出来たと思います。様々なことにアンテナを張り、幅広い活躍が出来る理学療法士を目指しがんばりたいと思います。

25日

平成24年度高等学校進路指導担当者会議(茨城県看護協会主催)

広報局長 高橋晃弘(アール医療福祉専門学校)

平成24年5月25日に茨城県看護協会にて平成24年度高等学校進路指導担当者会議に本会を代表して参加してまいりました。今年度から初めて看護協会から理学・作業・言語聴覚士会にそれぞれ参加のお誘いを頂き、開催の運びとなりました。

県内高校の進路指導担当の先生方が69校70名出席され、会場も熱気で溢れていました。内容として、はじめに県内の看護の状況等について、茨城県保健福祉部医療対策課の川那子係長から説明がありました。その後、看護協会の小角常任理事から看護の仕事についての話がありました。リハビリ資格の話として本会から私、作業療法士会から藤田事務局長、言語聴覚士会から草野会長がそれぞれの職種の説明、仕事内容等を説明いたしました。

会議を通して、保健医療福祉における看護の存在の大きさを改めて痛感しました。会議後、小角常任理事とお話をさせて頂き、「3士会とコラボできて非常に良かった」とお言葉を頂戴し、喜ばれておりました。

次年度以降も看護協会とタッグを組んで進路指導に関わっていきたく考えています。

June

7日

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 進路指導説明会

広報局長 高橋晃弘（アール医療福祉専門学校）

茨城県立健康プラザにて、広報局理学療法啓発部のイベント、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士進路指導説明会を実施しました。昨年までは理学療法（リハビリテーション）進路指導説明会として実施してきましたが、今年度から3士会の共同事業として初めての進路指導説明会を開催致しました。内容は、石塚理学療法啓発部長の挨拶に始まり、私から理学療法の説明や理学療法士に関する状況をお話させて頂きました。その後はOT士会、ST士会の代表による職種や業務・現状についての説明、県内の養成校（5校）による学校の特色などについての説明を行いました。進路指導の先生方は熱心にメモを取っていらっしやって、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士への関心の高さを感じられました。



17日

第4～10回研修会

場所：茨城県立医療大学

第4回テーマ：『理学療法と倫理』

講師：沼尻一哉先生（茨城西南医療センター病院）



受講者数：208名

永田知記（筑波メディカルセンター病院）
「理学療法と倫理」の研修会に参加し、職業倫理としての医療倫理や理学療法倫理について、医療提供者としての医療倫理及び患

者の権利について学ぶことができた。自分は今まで倫理というものを学ぶ機会がなく、まず倫理とは何なのかというところから始まった。広辞苑によれば倫理とは人倫のみち、実際道徳の規範となる原理、道徳、倫理学の略と記載されている。つまり、「ひと」として生きていく上で関わるすべての『他（自己以外のすべての者・もの）』との関係において、守られるべき道筋、規範ということである。また職業倫理はプロフェッショナルに求められる基本姿勢であり、専門職である自分も理解しておく必要があると感じた。医療に関する宣言や患者権利に関する宣言は昔から様々なものが出ており、それぞれを理解しておくことにより、今後、自分がどういった専門職になるべきであるのか、どういう姿勢で患者と向き合えばよいのかのヒントになるのではないかと感じた。

理学療法士における職業倫理ガイドラインでは守秘義務や個人情報保護、応召義務、インフォームド・コンセントなど普段の臨床業務で一般的に行われていることである。だからこそ、医療を提供する者として職業倫理を理解し、患者の権利を尊重しつつ、熱意や思いやりを持って、患者に接する必要があると感じた。今回の研修会で学んだことを参考にこれから精進していきたい。

第5回テーマ：『理学療法における関連法規（労働法含む）』

講師：大曾根賢一先生（筑波メディカルセンター病院）

受講者数：175名



飯田明生（筑波メディカルセンター病院）

今回、理学療法における関連法規という講義を受講させていただきました。その中でも特に印象に残ったことや今後生かせることなどを以下に述べたいと思います。

まず理学療法士の業務についてです。法律では診療の補助として位置づけられています。診療の補助とは医師の指示ないしは管理下で行うことであり、それは医師でない補助行為者の能力や経験、社会的期待に見合った行為でなければならないとなっ

ています。他の言い方では、医療行為の中でも医師以外ができないものを絶対医療行為といい、医師の指示を受けて行う仕事が相対的医行為といいます。つまり理学療法士の業務とは、この相対的医行為に該当します。医師の指示についても、患者の病勢に変化があるときはそのつど医師の指示を受ける必要があります。これらのことは勤務するに当たって大切なことであり、普段から高い意識を持ち、医師との連携も密にしていきたいと思いました。

次に医療事故と責任についてです。事故を無くすことは人間である限り不可能です。よ

って危険予知能力を鍛えることや確認を怠らないことが必要であると考えました。また場合によっては、患者さんやその家族との人間関係を構築することで、事故発生後の対応も変化すると思いました。万が一訴訟問題に発展してしまったときにも、医師の指示や看護師からの情報など、具体的にカルテに記載すること（普段から業務を丁寧にこなすこと）が自分の身を守ることにつながるのではないかと考えました。また twitter でも話題になりましたが、情報社会であるため守秘義務についても再度確認する必要があると思いました。

他にも介護保険法や医療法、労働関連法など、自分たちを取り巻く法律をしっかりと理解して行動することが大切だと感じました。そうすることで、社会における理学療法士の位置づけや信頼などに良い影響を与えられると思いました。

第6回テーマ：『人間関係及び接遇（労働衛生含む）』

講師：浅野信一先生（つくばセントラル病院）

受講者数：244名



梶間健史（いちほら病院）

つくばセントラル病院の浅野信一先生により「人間関係及び接遇（労働衛生含む）」というテーマで講演をして頂きました。これまで、私たちは学校や臨床実習などでも接遇を学んできましたが、今後は医療従事者・ビジネスマンとしての接遇を身につけ、職場のスタッフ、患者様・利用者様、そのご家族など様々な方と良好な人間関係を築いていかなければなりません。狭義の接遇として身だ

しなみ、挨拶、笑顔、言葉遣いなどがありますが、病院・施設の接遇は狭義の接遇を前提とした医療・介護技術そのものであるということを教えていただきました。

先生が講演の冒頭で紹介してくださった「すべての扉を開く鍵は謙虚さである。」という言葉をお忘れず、接遇の心得・スキルを身につけなければならないと強く感じました。また、医療衛生に関して、理学療法士はストレスを抱えやすく、その背景に人間関係が濃い職業であることや、対人援助職の心理的傾向・構造的な問題や勤務状況、病院はハラスメントが起きやすいということを学びました。これらが医療の質に影響を及ぼさないためにも、今回教えていただいた知識やストレスへの対処法をしっかりと身につける必要があると思いました。人間関係、接遇、労働衛生と今後理学療法士として働く上で常に必要となる心得・知識を学ぶことができた研修となりました。

第7回テーマ：『リスクマネジメント（安全管理と感染予防含む）』

講師：金子哲先生（水戸赤十字病院）

受講者数：249名



宮内勝士（鹿島病院）

私は今年国家試験に合格した一年目の理学療法士です。リスクという患者様に介入する際にバイタルを測る、転倒に注意するといった基本的なものぐらいしか考えていませんでした。

今回の講義ではそういった「リスク」そのものよりも「リスクマネジメント」といった事を考える必要性を学ばせて頂く良い機会

でした。

臨床において私はできる限り様々なリスクを考え、それらが起きないように注意しながら介入をしてきましたが、今回の講義であった KYT(危険予知トレーニング)や RCA(Root Cause Analysis：根本原因分析手法)、指差し呼称などはあまり考えた事がなく、RCA に関しては名称やどんなことをするかなど全く知りませんでした。

しかし、指差し呼称などは失敗を約 1/6 にするというエビデンスがあるということを知り、頭の中でリスクを考えるだけよりも実際に起きそうなリスクをあらかじめ声に出して確認する事も必要なのではと感じました。

今後患者様を治療していく際、今回勉強させていただいたように、治療チームで KYT を行い、その患者様にどんなリスクがあるか、どう対応していくか等を共通の認識にすることでより良い治療が行えるよう努めていきたいと考えております。

第8回テーマ：『協会組織と生涯学習システム』

講師：斉藤秀之先生（筑波記念病院）

受講者数：200名



杉森夏美（いちほら病院）

第8回の研修テーマは『協会組織と生涯学習システム』であり、専門職の一員として生涯学習を継続して行うこと、また新人理学療法士として新人教育プログラムを受講する重要性について再認識できるものとなりました。

現在、日本の理学療法士会の会員数は1966年の110人から40年経ち10万人に増加しました。そのような中で理学療法士のあるべき基本姿勢や資質が問われているのが現状です。講義の中で、茨城県の会員において新人教育プログラムを終了しているの

は10人に4人の割合であるとのことでした。それは私たち個人が勤務する病院や施設の質にも影響してきます。患者様との関わり合い以外にも、後輩への指導のために理学療法士は専門職の一員として常に知識を積み、理学療法の発展に努めることが大変重要だと感じました。私たちは理学療法士の免許を取得したばかりですが、免許を取得して終了ではなく、常に向上心を持ち、生涯学習を継続することが必要だという斉藤先生の言葉が心に強く残りました。その最初のステップとして新人教育プログラムを受講し、社会や病院に貢献できるのではないのでしょうか。

新人教育プログラムの内容として、理学療法の基礎・臨床の知識以外にも職業倫理、人間関係、医療法等の理解を深める講義も含まれています。そういった講義の中で自分自身の理学療法士としての立場・役割を再認識することができ、成長に繋がるのではないかと感じました。

第9回テーマ：『地域高齢者への介入とエビデンス』

講師：浅川康吉先生（群馬大学）

受講者数：90名



長谷川大悟（サンフラワーひたちなか）

今日では理学療法(士)の職域や可能性は拡大の一途をたどりに予防こそが最大の治療であるという言葉があるように、身体に障害のない方にまでアプローチをしています。

例えば、地域住民に対する予防的介入などに携わり、介助が必要な状態に陥らせないために療法士が各地で活躍し、それらが必要としている人も多く存在するのが実情です。

理学療法士及び作業療法士法では身体に障害のある者に対し・・・(以下、省略)とありますが、法律からすれば、矛盾する点もあります。しかし、高齢期のあらゆる場面で、色々な立場の理学療法士との接点が生まれています。

本講義では、地域基盤型アプローチにより地域で暮らす高齢者が、理学療法士に「会いたいときに会える」地域づくりが必要という話がありました。

私自身も若輩ながら今後到来する超高齢化社会に対応出来る、枠にとらわれない理学療法士を目指していきたいと思います。

第10回テーマ：『脳卒中ガイドライン』

講師：中馬孝容先生（滋賀県立成人病センター）

受講者数：83名



鈴木理絵（茨城西南医療センター病院）
第10回の研修テーマは『脳卒中ガイドライン』ということで、エビデンスが求められる背景、脳卒中リハビリテーションの進め方、評価・リハビリテーション・予後予測のエビデンス、EBMを根付かせるための今後の課題などについて講演して頂きました。

講演のなかでは、エビデンスがあると推奨されていることを知識として持っている

ことが大切で、エビデンスばかりにとらわれてはいけないとお話しがありました。目の前の患者様にどの様なリハビリテーションを提供したらよいかを、その知識と今までの経験をもとに、自分の治療がどの様な意味を持って行っているかを説明できることが重要であると話しされていました。日々の介入では、どの様な問題点に対してどの様な治療方針を立て、どの位の期間の介入でどこまで機能向上が見込めるかを見極めていかなければなりません。リハビリテーションでは介入方法が多様多様であるため、統一した評価をもとに、有効な方法や予後予測をエビデンスに基づいて選択していくことで、客観的に評価され、一般的に広く強く成果を伝えていけるのだと実感しました。

また、講演後半ではボツリヌス療法についての話題があがり、効果を持続させるためには、その後のリハビリテーションが重要とされていると聞きました。ここでもやはり、治療が必要なケースを見極めるための評価や、どのくらいの改善が見込まれるかという予測、リハビリテーションの有効性を客観的に評価されることで、普及していくと話されていました。

ガイドラインの確認から、近年普及されてきた治療に対する話題まで講演して頂き、大変興味深く聞くことができました。自分の評価・治療を見直し、患者様の機能向上の可能性を広げられるよう努めていきたいと改めて感じました。

新人歓迎会

会場：茨城県立医療大学

参加者：新人会員47名、一般会員16名、合計63名

國井亮（介護老人保健施設ゆうゆう）

平成24年6月17日(日)に茨城県立医療大学の学内食堂にて新人歓迎会を開催いたしました。今年の参加者は60名を越え、ゲームや自己紹介などで他施設の方との交流も広がり盛大に盛り上がりました。

今年のゲームは、「第1回 梅雨場所三種相撲」と題し、グループに分かれて押し相撲、指相撲、腕相撲をチーム対抗で行いました。異性同士の戦いでは女性が男性に勝つなどのPTとして頼もしい一面もありました。

自己紹介では、施設ごとにアピールをしていただき施設間の連携も深まりました。

理学療法士として働くうえで、『コミュニケーション』や『連携』はとても大事になってきます。こういった場でなかなか触れ合うことの出来ない会員同士がコミュニケーションを行ない、連携を深めることで、ひとりでは出来ない大きな仕事を達成できるようになるのではないのでしょうか。

われわれ厚生部といたしまして、今後もこのような場を提供し、みなさんの地域連携に役立てて頂ければと思います。みんなで力を合わせて“いばらき”を盛り立てていきましょう！



23日

高校野球メディカルサポート派遣会員研修

場所：水戸赤十字病院

内容：①メディカルサポート活動を振り返って

②メディカルサポートにおける理学療法士に必要な知識・技術

③BLS CPR G-2010 および救急処置

④意見交換会

対象：現在または過去にサポート活動に参加した会員

参加：14名

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

高校野球選手権大会への会員派遣事業は、2002年から開始され、11年目となりました。年々サポートする試合も増え、選手のみならず観客も含めたメディカルサポートや救急対応も求められるようになってきており、派遣会員の共通認識とサポートレベルの維持向上を図る必要性が高まっていました。そこで、今年度よりメディカルサポート派遣会員の合

同研修会を開催いたしました。今回はこれまでサポートに関わった会員を対象とし、受講した会員を派遣する形をとりましたが、今後は門扉を開いた研修を検討していきたいと思
います。

全国的にも、野球に限らずスポーツ分野での理学療法士の活動が増えてきております。理
学療法士がスポーツ界にとっても重要な位置づけとなる職種となるよう、今後も取り組ん
でいきたいと思
います。



《メディカルサポート派遣会員研修会に参加して》

有賀雅泰（広瀬医院）

今回、球場においての怪我等や、今後の怪我の予防に対し必要となる知識を得るため高
校野球メディカルチェックの研修会に参加させて頂きました。中でも、実際のスクリーニ
ングテストは、自分の勉強不足もあり抵抗の掛け方や動かし方を理解していませんでし
たが、上牧先生のご指導により非常にわかりやすかったです。また、CPR 及び AED の研修
では、CPR の強さ、回数やリズムを人形を使い実技指導して頂いたため、自分の中で曖
昧になっていた部分を分かりやすく理解することが出来ました。今後、この研修会で学ば
せて頂いたことを参考にし、高校野球選手権大会の現場でも役立てていきたいと思
います。

15日ほか

作文コンクールに関するラジオ広報 -IBS 茨城放送における番組放送-

広報局長 高橋晃弘（アール医療福祉専門学校）

「理学療法の日」作文コンクールの作品募集および昨年度の入賞作品朗読番組が IBS 茨
城放送（水戸 1197kHz 土浦 1458kHz）で6月15、22、29日、8月17、24
日（金）14：05から 放送されました。

7月17日には「理学療法の日」にちなみ、大曾根事務局長が電話出演しました。番組で
は理学療法士の仕事、資格取得方法、理学療法士の活動分野、今後の展望などについてイ
ンタビューを受け、理学療法士の社会的認知度の高まりを感じました。その中でも理学療
法士の資質について話題が上がった事が印象的でした。今回の番組を視聴して、県民の皆

さまのニーズに應えるため、自己研鑽に努めていかなければならないと改めて感じました。

29日

第1回茨城県臨床実習連絡協議会

場所：アール医療福祉専門学校

議題：臨床実習教育機関評価および施設側評価について

県内教育機関における臨床実習要項の統一化について

出席者：教育機関4校4名、実習施設4施設5名 計9名

卒前教育部長 浅野信一（つくばセントラル病院）

内容

①日本リハビリテーション学校協会による評価への各教育施設の意向について

- ・日本リハビリテーション学校協会の詳細を調べ受けることを検討していく

②実習施設情報調査の必要性について

・士会として実習受入れ施設評価を実施し、状況把握をすることで実習に関する支援策を検討、実施する手掛かりとする

・調査項目：臨床実習指導者研修会受講者状況、学生を受け入れている教育施設数、スタッフ数と受け入れ学生数の割合、クリニカルクラークシップ導入の有無、疾患特性、指導法等

③県内教育機関の情報調査について

- ・県内施設と県外施設の実習受入れ割合等の情報
- ・臨床実習要項（実習教育目標・評価用紙・課題・提出物等）を提出してもらい、内容について当会にて協議する

④臨床実習要項の統一化について

統一化の利点：さまざまな様式に対応する指導者の負担軽減、評価尺度の標準化による公正な評価

- ・書式（評価尺度、合否判定、自由記載欄）提出物の統一化に向けた検討
- ・評価用紙のデジタル化の可否

決定事項

・士会としては、日本リハビリテーション学校協会による評価の詳細が明らかになり次第、準備期間を経て、積極的に評価を受けるよう学校側に要請する。

- ・各教育機関の書式・提出物・課題等について協議会にて比較・検討する。

付帯事項

- ・評価表の標準サンプルを協議会で検討していく。
- ・教育機関が持っている臨床実習指導において生じた問題等の情報を協議会にて検討する。
- ・教育機関と施設代表者による公開討論会の企画検討をする。

July

10日

北茨城市での保健活動 -茨城県看護協会、北茨城市シルバーリハビリ 体操指導士会との共同保健活動（第2回）-

場所：北茨城市市民ふれあいセンター

対象：北茨城市シルバーリハビリ体操教室参加者

内容：3ヶ月後の相談事業、カウンセリング・リハビリ相談
目標進行状況確認・体力測定等

参加者：60名

スタッフ：部長・部員5名、県北地区地域リハステーション4名 計9名

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）



昨年度から継続して実施しています北茨城市での共同公益事業の第2回目を開催いたしました。第1回の事業実施後の口コミ効果もあり、体操教室自体の参加者も60名と大幅に増え、大変盛況に実施できました。より地域レベルでの支援と、スタッフの配置も手厚くするため、今回は県北地域の地域リハステーションであるやすらぎの丘温泉病院・(株)日立製作所多賀総合病院の会員様にもご協力頂き、地域全体で実施する体制を試みました。地域で共同して事業を実施できたことは、とても意義のある事でありました。現在すすめている地域ブロック制に関しても、今回の試みは大きな意味を持つものと感じています。また、今回ご協力いただきました茨城県看護協会・北茨城市シルバーリハビリ指導士会・北茨城市立総合病院・やすらぎの丘温泉病院・(株)日立製作所多賀総合病院・社会職能局各部員の先生方には、紙面をお借りして感謝・御礼申し上げます。

23日～26日

第94回全国高校野球選手権茨城大会 メディカルサポート

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

今回の高校野球選手権大会は、先の研修会受講者を派遣とし、サポート活動を実施いたしました。今夏も暑い日が続き、選手のサポートのみならず観客や応援団の熱中症に対する処置も行ったようです。益々のサポート活動の充実化と、高校野球だけでなく様々なスポーツ活動の支援に向け、体制整備の重要性を感じており、今後もその体制づくりを進めていきたいと思っております。派遣会員の皆様、暑い中大変お疲れ様でした。

<活動実績>

準々決勝 7月23日（月）水戸市民球場・日立市民球場

神宮史明氏・中村功氏・古澤弦氏・松本正孝氏

準決勝 7月25日（水）水戸市民球場 田村耕一郎氏・古田英二郎氏

決勝 7月26日（木）水戸市民球場 佐用寛文氏・神宮史明氏

《高校野球メディカルサポートに参加して》

神宮史明（筑波記念病院）

今回のメディカルサポートに参加させて頂き、私自身野球が好きで学生時代から野球をしていたこともあり球場に入ると普段とは違った緊張感を感じました。野球というスポーツは打つ・守る・走る、の要素がありますが、それぞれのポジションに特性があり、同じ動作の反復が多いことから各ポジションで慢性的な障害につながる競技です。サポート活動は医師・トレーナー・理学療法士がチームで関わりますが、理学療法士の活動の大きな三要素は、①問診表から試合前の選手の状態の確認、②試合中の選手のチェック、③試合後の問診・評価になります。大会前にはメディカルサポート参加者のリスク管理のための評価や確認事項の統一を図る目的で研修会も実施されました。今大会では、決勝後に医師の処置が必要な選手が一名いましたが、その他は大きな怪我もなく無事終了しました。日々の臨床ではスポーツ現場に出る事が無いため大変貴重な経験になるとともに、評価の難しさや重要性を学ぶことができました。今後も選手のパフォーマンスの維持・向上に向けて関わっていきたいと思っております。

August

～31日

理学療法・作業療法・言語聴覚療法見学会

対象：茨城県内の高校生

実施施設：茨城県理学療法士会会員の各施設 35施設

参加者：223名

理学療法啓発部長 石塚保士

今回、10日間に渡り理学療法・作業療法・言語聴覚療法見学会を開催しました。リハビリテーションに関する関心も高く、多くの高校生に参加していただきました。

今後も継続して啓発事業の一つとして企画運営していきたいと思えます。

SEPTEMBER

8日

介護予防キャラバン in 古河ふれあい広場 2012

《古河ふれあい広場2012に参加して》

久保田淳（総和中央病院 デイケアセンター）

今年のふれあい広場は天候に恵まれ過ぎて、9月とは思えない程の日差しが容赦なく照りつけ、測定機器を日陰にしまわないと熱くて触れなくなってしまう程でした。

昨年までは地域の一事業者として参加してきたこの催しに、今回は県士会員として参加、また、看護協会との協働参加という、チーム医療という横の繋がりを目指す上でも重要な試金石だったと思います。我々の世界に「地域医療」「他（多）職種連携」が叫ばれる様になって久しいのですが、現実的に実際の活動として行われる様になったのはここ数年の事で、それも会員数の大幅な増加によるところが大きいと思われまます。新入会員の増加により「数」は足りてきていますが、今後「質」の向上を目指す上で、このような地域活動は重要な意味を持つと思われまます。施設の中には聞こえてこない、生の声を聞くことができる機会はなかなかありませんので、会員の方々は積極的にこの様な催し参加することが自分自身の幅を広げる事にも繋がると思えます。今後は特に新卒から3年目くらいの若い方々の積極的な地域活動への参加をお願いいたします。



13日

第1回

茨城県看護協会「まちの保健室」との共同事業

場所：茨城県保健衛生会館

内容：リハビリ相談・体力測定

参加者：19名

スタッフ：金子哲氏・高橋千晶氏・村田康成氏

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

今年度最初のまちの保健室との協働事業は、この度改装されて当会の事務所も入った保健衛生会館で実施されました。茨城県看護協会が会館内でまちの保健室を常設することになり、その第1回目の記念すべき日に当会が一緒させて頂きました。今回は水戸地区の地域リハステーション施設の会員のご協力の下、運営させて頂きました。今後は保健衛生会館での常設まちの保健室に、年数回イベント的に参加させて頂く予定です。より地域に根差した活動ができるよう、会員の皆様の更なるお力添えを頂ければ幸いです。なお、先に予定されていたイオン内原での事業が、イオンの改装工事のため中止となりましたことも合わせてご報告させていただきます。



《まちの保健室事業に参加して》

高橋千晶（水戸済生会総合病院）

今回、当会事務所が新しく移転した茨城県保健衛生会館で、茨城県看護協会による血圧測定・健康相談と併せて、体力測定・リハビリ相談を行いました。参加者数は19名で、体力測定の結果に一喜一憂されたり、リハビリ相談も多く時間が延長するほど盛況でした。「病院ではあまり聞けなくて・・・」といったことが多く、普段の勤務でもより一層地域住民に寄り添っていかねければならないと感じました。

15、16日

第31回関東甲信越ブロック理学療法士学会

テーマ「ひとつになろう理学療法～臨床・教育・研究～」

稲葉豊（株式会社日立製作所ひたちなか総合病院）

今回の学会テーマは「ひとつになろう理学療法～臨床・教育・研究～」であり、シンポジウム、教育講演、一般演題など多くのプログラムから構成されており、数多くの講演を聴講することができました。参加させて頂いた印象は、全体的に若い参加者が多く、講演や演題に一生懸命に耳を傾けている姿や積極的に質問している姿が多く見受けられ、会場は活気にあふれていると感じました。

私自身は「当院回復期病棟における対数モデルを用いた脳卒中片麻痺患者の機能的予後予測法導入の検討」という演題で、ポスター発表させて頂きました。ポスター発表の方法は、各セッションに配置されている座長の誘導に基づいて行われました。私が発表させて頂いたセッションでは、発表者が全員発表を終えてから聴講者が各発表者へ時間内で質問するという方法がとられました。発表後は、約20分間質問を受ける時間を頂くことができ、多くの皆様から質問や建設的なご意見を頂くことができました。また、同一セッションの発表者と話す時間を設けることができ、発表に際して工夫した点や難渋した点など情報交換する機会にも恵まれました。

今回の学会参加は、私にとって臨床・教育・研究の観点から理学療法を見つめ直す良い機会となりました。学ばせて頂いたことを明日からの臨床に生かせるよう、今後も自己研鑽していきたいと思います。今回の学会を企画運営して下さいました皆様に深く感謝申し上げます。

松嶋美正（つくば国際大学）

大宮には一度だけ訪れたことがあったのですが、印象としては駅の東が昭和、西が平成。私は昭和な人間なので、東口の方がしっくりきました。しかし、学会会場は近代的な西口ということでした。

今回は口述発表を行ってきましたが、久しぶりでもあり年甲斐もなく緊張いたしました。最近ではフレッシュマンの参加者も多く一所懸命さも伝わってきて、とても刺激になります。新人の皆様には発表への参加の有無に関わらず、学会に参加することで、何か得るものは必ずあると思います。是非、会場に足を運び、その後はその土地のおいしいものを食べるのも良いと思います。口述発表にしる、ポスター発表にしる方法は違えど「伝える」ということに変わりはないと思います。私は、この「伝える」ということをおろそかにしてきたかもしれません。臨床現場にいた時、学会発表は、単なる通過点に過ぎず論文として形に残すということに重きを置いてきました。人の考えは、行動に表れるものです。もともとプレゼンテーション能力が低いうえに発表の準備不足で聴講して頂いた方々に、どれだけ伝えられたかは疑問です。しかし、現在は、教育現場に席を置いておりますので、「伝える」ことの比重が自然と大きくなり、その重要性にもようやく気が付きました。やはり発表というものは緊張するものだと思いますが、チャレンジなくして失敗

なし、失敗なくして、成長なしということで、これからもチャレンジしていきたいと思っております。



山本一樹（JA とりで総合医療センター）
9月15、16日埼玉にて開催された第31回関東甲信越ブロック理学療法士学会に参加し、フレッシュマンポスター発表をさせていただきました。大腿骨頸部骨折後の「歩行再獲得への補助具の検討」という内容の発表をいたしました。発表後は他の指標を用いての評価の検討や、今回は頸部骨折の一症例であったが、他の症例でも今回使用した補助具を検討しバランスの評価などを行うと他の研究もできるのではないかなど、次に繋がるアドバイスや濃い内容の質問

を座長の方を始め多くの皆様に頂き、新たな視点での考えを持つことができました。

また私事ではありますが、2、3年前よりツイッターを始め現在も続いていて、学会中はフォローしている友人、先輩、講師の方々を感じたことや私の参加できなかった他会場でトピックとなった内容についての情報や文献をつぶやいており、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を通して学会を楽しむことができました。

今回学会に参加して得たことを日々の臨床に活かしたいと思っております。客観的なデータを蓄積し、研究で行われていることの有用性を検証して少しでも患者様にとって良いものとなれば良いと思っております。

吉田峻祐（志村大宮病院 茨城北西総合リハビリテーションセンター）

私は今回、埼玉県の大宮ソニックシティで開催された第31回関東甲信越ブロック理学療法士学会のフレッシュマン枠において、「脳卒中片麻痺にて重度感覚障害・注意障害を呈した症例に体重免除トレッドミル歩行練習と Gait Solution 継手付き短下肢装具を併用した介入の効果」というテーマで症例報告をさせて頂きました。脳卒中ガイドラインなどで推奨されているトレッドミル歩行練習ですが、実際に使用されている施設などは少ない様子であり、練習頻度や使用方法に関して貴重なご意見、ご質問を頂き、非常に有意義な発表になったと感じています。また、普段私が行っていることをポスターという形にすることで、考えを相手に伝えることの難しさを感じました。他の方々のポスター発表から、伝達方法やその工夫などに関して多くのことを学ぶことができました。私と同年代の理学療法士の皆様から、「ボツリヌス治療施行後の理学療法」や「バランス検査の評価に対しての病院での取り組み」など、各病院・施設の特徴を活かした研究や症例報告の発表を聞かせて頂き、私も同年代の方々に負けられないように頑張らなければならないと刺激を受けることができました。

今回、発表することを承諾して頂いた患者様、協力頂いた病院スタッフ、貴重な経験をさせて頂いた運営スタッフの皆さまに感謝し、本学会で経験し感じたことを大切に、今後の理学療法に活かしていきたいです。

30日

理学療法士講習会基本編

生涯学習部長 千葉浩市（つくばセントラル病院）

9月30日に今年で2年目となる理学療法士講習会基本編「慢性閉塞性肺疾患患者への呼吸リハビリテーションの基礎と臨床」がアール医療福祉専門学校において開催されました。

台風17号が接近するあいにくの天候でしたが、受講生は関東地方のみではなく関西や東北からの応募もあり当日は58名の参加でした。

最初の講義は茨城県立医療大学医科学センターの飯塚眞喜人先生より「呼吸リハのための生理」というテーマでご講演頂きました。飯塚先生からは呼吸の動きや呼吸機能検査の概要といった基礎的な話をされた後、生理学研究者の立場からの私見を含みながら病態理解や訓練内容・効果の説明を頂きました。更に慢性閉塞性肺疾患の治療には対症療法として介入するのみでなく、喫煙をなくすことが必要であると強調されていました。

茨城県立医療大学の富田和秀先生からは、「COPD患者の評価—治療—再評価の手順」について臨床で行う実際の流れを具体的に示して頂きました。評価は身体所見の診方からQOL、栄養、心理状態の評価表を用いて説明を頂き、理学療法プログラムの進め方の実際を入院からの日程や実施内容、動作指導に至るまでご講演を頂きました。

前橋赤十字病院堀江健夫先生の講義では、慢性疾患の特徴や医療費の問題、COPDの診断と治療、これからのチーム医療の必要性について説明されました。医療サービスの断片化を問題として挙げ医療提供の最適化を図るために先生が群馬で実践されているCOPD連携システムをご講演頂きました。

アール医療福祉専門学校の高橋晃弘先生には、本講習会のサブテーマともいえる「禁煙」について喫煙が肺に及ぼす影響や海外の禁煙活動を映像を用いてご講演頂きました。

講習会は台風の上陸の影響で予定時間を30分短縮して全日程を終えましたが、受講後のアンケートからは有意義な講習会だったと好評を頂きました。

October

8、9日

第64回秋季関東地区高校野球茨城大会 メディカルサポート

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

夏の大会の余韻も残る中、早くも秋季大会のサポートを実施いたしました。天候不良のため、1日順延がありましたが、大きな事故もなく終了しています。来年度以降、スポーツ活動に関する体制を整備し、より充実かつ他種目のサポートもできるようにしていきたいと思えます。

<活動実績>

準決勝 10月8日（月）土浦市営球場 竹内拓也氏・古澤弦氏
決勝 10月9日（火）土浦市営球場 金子哲氏・古田英二郎氏

《メディカルサポートに同行して》

古澤弦（筑波記念病院）

今回でメディカルサポートスタッフとしての活動は4回目になります。3年前に初めて同行した時は、試合前に事前に配布している問診票の記入がなかったり、敗戦校にはメディカルチェックを断られたりすることありましたが、最近では問診票の記入も細くなり、サポートの必要性を感じていただけるようになってきたと感じています。またサポート側も、事前に肩・肘関節を中心とした検査方法の確認、一次救命法の勉強会や意見交換を行ったことにより意思統一され、スタッフ間で連携が取りやすくなりました。

今大会では、試合中のアクシデントで、チームの監督からの依頼でテーピングをするケースがありました。医師とも相談しながら対応しましたが、現場では即座の対応ができるようにしておくことの重要性を痛感しました。競技の特性をより理解して競技サポートができるようになりたいと思えます。

14日

第11・12回研修会

場所：茨城県立医療大学

第11回テーマ：『スポーツ外傷・障害予防の“目に見える化”』

講師：竹村雅裕先生（筑波大学）

受講者数：269名



佐野綾香（いちほら病院）

筑波大学体育系准教授の竹村雅裕先生により「スポーツ外傷・障害予防の“目に見える化”」というテーマで講演をして頂きました。競技スポーツは外傷や傷害を起こしやすく、それに対し理学療法士は外傷・障害の予防にどのような関わりを持つのかを学びました。私達は予防方法として、ウォーミングアップ・ストレッチ・適切なトレーニング・心理的サポートなどを思い浮かべると思います。しかし先生は講演の冒頭で一体その中でどれが有効なのか、本当にそれで予防できるのかを説いておられました。

スポーツ外傷・障害予防には、医学におけるアプローチ方法と一般的な予防へのアプローチがあり、それを応用したスポーツ外傷・障害予防の流れがあります。しかしスポーツは練習時間やスポーツに関わっている時間に個人差があり、その差は大きな問題となります。また、スポーツ外傷・障害の発生機序には内的因子・外的因子、それに加え原因となるプレーがあり、その中で内的因子が理学療法士として大きく関わられることを教えていただきました。病院の中で患者様と接しているときは、目の前の患者様の内的因子を考慮し、問題点を抽出すると思います。今回の講義ではさらに一歩進んで、特定の手順をプログラムとして記述したうえで、“マクロの目”を養うことで必要な時に簡単に使用できるようになるという事を学ぶことができた研修となりました。

今回学んだことをスポーツに関わる多くの方に還元できるよう、理学療法士として活動していく必要性を感じました。

今回学んだことをスポーツに関わる多くの方に還元できるよう、理学療法士として活動していく必要性を感じました。

第12回テーマ『リンパ浮腫の理学療法』

講師：山本優一先生（北福島医療センター）

受講者数：273名



舛井禎久（いちほら病院）

今回、北福島医療センターの山本優一先生による「リンパ浮腫の理学療法」という講演を受講させて頂きました。その中でも特に印象に残った事や、今後の臨床の現場で活かせる事を以下に述べたいと思います。

リンパ浮腫には1次性、2次性に分類でき、前者は先天的なリンパ管の発育不全等、

後者は外科手術や感染などによるリンパ管の機能不全によるものです。特に 2 次性は、乳癌、子宮癌術後の女性に多いとされています。

講演の中では、リンパ浮腫の概論として、血管とリンパ系のメカニズム、術後の発症率、国内外のガイドラインを確認し、その後、リンパ浮腫の理学療法について学ばせていただきました。その中で、評価として圧痕テスト、周径計測、皮膚つまみテスト。治療として多層包帯法、用手的リンパドレナージ、スキンケア、体重管理、活動量の調整法、リスク管理など動画を交えて詳しく説明していただきました。講演の中で、山本先生はリンパ浮腫の根治は不可能であり管理するものである。つまり「予防が重要」であり、患者様自身においても弾性着衣の使用により早期症状を改善、維持することが可能であると繰り返し述べられていました。

今回、リンパ浮腫の理学療法について臨床の現場や患者様自身で行える予防法など、現場で活かせる広範囲な知識を高めることができた研修会となりました。

16日

北茨城市での保健活動 -茨城県看護協会、北茨城市シルバーリハビリ 体操指導士会との共同保健事業（第3回）-

場所：北茨城市市民ふれあいセンター

対象：北茨城市シルバーリハビリ体操教室参加者

内容：体力測定・カウンセリング・今後の生活や身体に関する助言等

参加者：47名

スタッフ：部長・部員9名、県北地区会員4名 計13名

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

北茨城市での共同保健事業の第3回目を、下記の通り開催いたしました。今回も北茨城市立総合病院・楸日立製作所多賀総合病院・やすらぎ丘温泉病院の会員様と協働して事業を実施できました。参加者様の反応も良く、また実施してほしいというお言葉をいただいております。今回こうして他団体や自治体と連携を深め、会員同士で協力して進められたことは、地域活動以外にも沢山の収穫がありました。お世話になりました北茨城市・茨城県看護協会・シルバーリハビリ体操指導士会・地域会員・社会職能局員・そして士会員の皆様に、感謝申し上げます。次年度も、よりよい地域活動を、他団体・多職種協働で考案していきたいと思っております。



《北茨城市事業に参加して》

石井利幸（㈱日立製作所多賀総合病院）

私が普段接しているのは入院の患者様なので、今回のように近隣住民の方々とは接する機会はとても新鮮に感じました。参加された方は、シルバーリハビリ体操に参加されていたり興味がある方が多く、活動的な印象を受けました。実際に私が関わった方も、前回の測定結果と比べて維持・改善されている方が多かったように思います。普段は目に見える結果として表れにくいためか、少しでも結果がよいと皆さん笑顔になっていたのが印象的です。今回も新たに参加して下さった方もおり、地域の活動が広がる機会になれたのではないかと思います。同じ地域の異なる分野の方々と一緒に事業を行なえた事はとても良い経験で、今後の活動に活かしていきたいと思えます。



20日

介護予防キャラバン in 常総市「ふくし祭り」

地域医療福祉推進部部員 渡辺聡美（ともべ訪問看護ステーション）

10月20日、常総市石下総合福祉センターにて行われました「ふくし祭り」において、介護予防キャラバンのスタッフとして参加させて頂きました。

今回の事業の内容といたしまして、健康に関する問診・体力測定・測定結果を踏まえてのリハビリ相談を行い、当日は予測を上回る92名の方が参加して下さいました。体力測

定は筋力・バランス能力・柔軟性をみるものとなっており、結果がレーダーチャートによって一目で分かるため参加された方々に好評でした。参加者の中には昨年も来て下さった方もおり、「来年も元気に体力測定に来るよ」と約束して頂きました。

今回の活動に参加し感じたことは、地域の皆様は健康に対し高い関心があり、相談できる場所を求めているということです。私たち理学療法士が、地域の皆様の身近で気軽に相談できる存在となればと思いました。



27、28日

介護予防キャラバン in 結城市 「祭りゆうき2012」



公益事業推進部次長 井上克也（鹿島病院）

10月27、28日に行われました「祭りゆうき2012」での事業開催は、今回が初めてであり、また古河・筑西ブロック会員との初めての協働事業として実施致しました。

今年度より体力測定の方法として握力、片脚立位、長座位体前屈の3種を測定したデータをもとに点数化し、更にそれをグラフ化して印刷したものをもって対象者へフィードバックするという流れでした。

催事自体がかなり大きな規模であったこと、また、特に27日に関しては晴天に恵まれたこともあり、177名（内2名相談のみ）と多くの集客を得られました。大音量でのよさこいやお祭りの神輿が出たりと賑やかな会場であったため、スタッフ全員が声を枯らしながらも立ち寄ってくださった方々のためにと一生懸命対応していました。昼食をとるのもままならない状態ではありましたが、部員の皆様、古河・筑西ブロック会員の皆様のご協

力のおかげで大きなトラブルもなく実施することができました。翌28日は雨模様ということもあり47名の参加に留まりましたが、両日ともスタッフ同士が協力し合いながら無事に事業を終えることができました。

2日間を通して感じたことは、病院に勤務している自分としてはとても活気あふれる「祭りゆうき2012」に参加させて頂いて、地域に元気な高齢の方々がこんなにも多くいらっしゃることに驚かされました。しかし身体的には健康でも何人かに見られたこととして朝方4時頃に起きてしまってあまりよく眠れないと訴える方や食生活の相談などの方もいらっしゃいました。日々の病院でのリハビリでも稀に相談されることでもあります。特に今後地域の方々と接し相談を受けるにあたっては身体機能の事以外にも多くの知識や視野、コミュニケーション能力が必要だとも感じました。

今回の事業に参加させていただき地域の方と接すること、地区会員との連動など今後に繋がる有意義な時間だったと実感しております。

《地区ブロック事業に参加して》

福島好明（結城病院）

今回、地区ブロック事業の一環である地区会員の交流会、介護予防キャラバンに関わる機会がありました。交流会は、日常なかなか話すことのない他病院・施設の皆さんと、顔の見える関係性を築き、地域でのリハビリテーションの連携をスムーズに行うことを目的にしていますが、今回は理学療法士だけでなく、作業療法士、言語聴覚士にも声をかけ参加して頂いたことで、他職種と話す機会もあり、とても有意義な時間となりました。私を含め他病院・施設の皆さんも気軽に業務や悩みなどを相談している場面を多く見かけられ、今後地域発信のできることを検討してやってみよう等の話も出るなど、とても充実していた交流会だったと思います。

介護予防キャラバンでは、今年10月に結城市で行われた「まつりゆうき2012」に参加し、体力測定やリハビリ相談事業を行いました。当日は悪天候の中、200人以上もの市民の方に参加していただきました。皆さんの健康に対する意識の高さを知るだけでなく、様々な悩みや相談を受ける機会があったことで、普段の日常業務では感じることはできない貴重な経験ができたと思います。今後、この事業で得た経験を活かし、地域や市民の皆さんに還元できる取り組みをしていければと考えています。

今回の事業をきっかけに同じ地域で働く会員の交流をより一層はかり、理学療法やリハビリテーションの啓発活動をしていきたいと思っています。



November

12日～14日

「介護の日」パネル展示

場所：茨城県庁 2 階「県民情報センター県政広報コーナー2」

内容：理学療法（士）の啓発、本会の活動紹介、リーフレットの配布

広報局長 高橋晃弘（アール医療福祉専門学校）



茨城県では介護についての理解と認識を深め、地域社会における支え合いや交流を促進することを目的として「介護の日（11月11日）」にパネル等の展示を行っております。本会も昨年に引き続き出展してきました。本会以外では看護協会、作業療法士会、言語聴覚士会、介護福祉士会など介護に関わる様々な団体が出展しておりました。

17日、18日

第2回

茨城県看護協会「まちの保健室」との共同事業 ～第37回水戸市産業祭～

場所：水戸市総合運動公園体育館

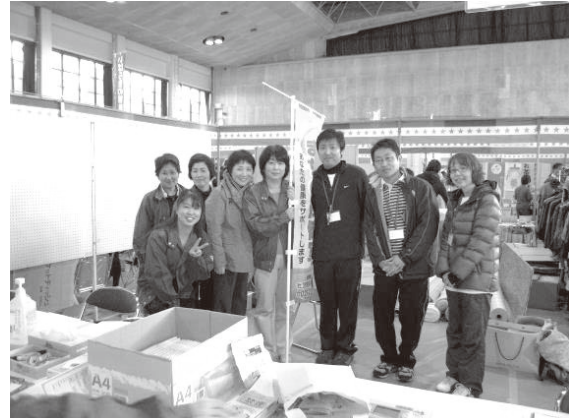
内容：まちの保健室・リハビリ相談ブース・救護所

相談件数：17日30名・18日27名 2日間合計57名

スタッフ：石塚晴美氏・岩崎円氏・金子哲氏・高橋千晶氏・所圭吾氏

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

前回実施した保健衛生会館での常設まちの保健室に続き、水戸市で開催された第37回水戸市産業祭でも、共同事業を行いました。今回は水戸地区リハステーション施設にご協力をいただき、リハビリ相談ブースのみの設置でしたが、悪天候にも関わらずたくさんの相談をいただきました。ご協力いただきました茨城県看護協会の皆様および当会水戸地区会員には、この場をお借りして御礼申し上げます。今後とも地域活動に、会員の皆様の更なるお力添えをいただければ幸いです。



《水戸産業祭に参加して》

岩崎円（石岡市医師会病院）

2日間、通常は体力測定を行っているところを今回はリハビリ相談のみの実施でしたが、多くの一般の方に来ていただきました。在宅で暮らしている中での体の不調や、今後の身体的な衰えに対する不安、介護に対する不安など、多種多様な相談がありました。また、リハビリテーションに関する相談の他に内科的な相談もあり、看護師さんと連携をとることで円滑に相談を受ける事が出来ました。各協会のスタッフは様々な施設・病院から集まっており、その中で協力し合い事業を行えた事は、連携を図るうえで有意義な時間となりました。

今後は、鹿行地区の常設まちの保健室にも、リハビリ相談窓口を設置する予定です。地区会員および他団体と連携を図りながら、私たちが直接関わることなく悩みを抱えている沢山の一般の方々の相談を受けて、地域に貢献していきたいと思っております。会員の皆様には、是非この事業にご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

24日

介護予防キャラバンin筑西市「みんなの生活展」



《介護予防キャラバンに参加して》

須田浩二（協和中央病院）

筑西市にある下館美術館（アルテリオ）において「みんなの生活展」が開催され、寒空の中、約120名の方が参加されました。介護予防キャラバンスタッフとして参加させて頂いて気づいた事は、老若男女問わず住民の健康意識が高い事、介護予防を必要とする多くの高齢者が特別な支援を受けずに生活されているという事です。このような高齢者に対し、今回わずかでも支援ができた事は貴重な体験となり、如何に地域の高齢者が介護予防に取り組んで頂けるようにするか、その選択肢やきっかけを増やす働きかけが重要であると考えさせられました。県西地区は慢性的な専門職不足でしたが、近年は若い理学療法士を中心に増加傾向であります。今こそ「自分の地域は自分で守る」といった意識を持って、若い会員と共に地域貢献を果たしていきたいと思えます。

《筑西市「みんなの生活展」に参加して》

菊池敏弘（県西総合病院）

筑西市「みんなの生活展」に介護予防キャラバンとして参加させて頂きました。今回より、圏域単位での地域活動、看護協会との協働とういうことで、近隣施設の医療スタッフと顔を合わせての事業参加となり、貴重な体験をすることができました。不慣れな点が多く、他スタッフに迷惑をかけてしまう事もあったと思いますが、それが良いコミュニケーションとなり距離を近づけることができたのかなと思えます。

施設の中だけでは聞こえない生の声や、見えてこない様々な視点、その地域医療を担う責任を感じる事で自分自身がセラピストとして一回り大きくなれそうな感覚がありました。

同じ地域の異なる分野の方々と一緒に事業が行えた事はとてもいい経験で今後に生かして行けたらと思います。

26日

国体参画に向けた打ち合わせ会



特定事業局長 金子哲（水戸赤十字病院）
国民体育大会（国体）は、都道府県持ち回りで行われている、わが国最大の国民スポーツの祭典です。1946年に京都を中心とする京阪神地区で第1回大会が開催され、本県では、1974年の「水と緑まごころ国体」から45年後の2019年に2回目が開催予定となっております。既に県では今年の5月28日に、国体県準備委員会の設立総会と第1回総会が開催され少しずつ動き出しております。本会も理学療法士人生で1度のこの機会に茨城国体での支援に参画すべくプロジェクトチームを立ち上げ、各競技団体の支援ニーズならびに競技力向上に貢献できる人財を育成し支援をしていく予定です。それに先立ちまして、11月26日に「国体参画に向けた打ち合わせ会」、11月30日に「（仮称）茨城県アスレティックトレーナー連絡協議会（茨城AT協議会）設立準備ミーティング」が行われ、茨城AT協議会を発足し、本会を含め茨城県柔道接骨師会、茨城県鍼灸マッサージ師会、全国鍼灸師会と協働で選手や競技団体をサポートしていくこととなりました。（写真は11月26日の打ち合わせ会の様子です。）また、今後は国体への支援活動の開始を契機に、地域におけるスポーツ活動への支援も、地域医療福祉推進部と連携を図りながら少しずつ整備していく予定です。

December

9日

第16回茨城県理学療法士学会



場所：茨城大学水戸キャンパス

テーマ：『生活習慣病の運動療法』

学会長：高倉秀暢先生

（水戸メディカルカレッジ）

参加者：307名

（会員302名、非会員5名）

《学会後記》

高倉秀暢（水戸メディカルカレッジ）

12月9日（日）茨城大学水戸キャンパスにおいて、第16回茨城県理学療法士学会が開催されました。昨年3月に東日本大震災が発生し、水戸（県央地区）は建物や道路などに多大な損害を被りましたが、約1年9ヶ月経った今、市民およびボランティア活動の人達また各関係機関等のご協力で元の状態になりつつあります。

震災後も竜巻や雷、局地的な大雨があり、今回の会場である茨城大学水戸キャンパスも被害を受けており、講堂の使用が危惧されていましたが、大学側のご協力や学会運営委員の努力によってこのような立派な学会を開催できたことを心から感謝申し上げます。

本学会は口述の演題発表、基調講演「生活習慣病の運動療法」、平成24年度「理学療法の日」の作文コンクール表彰式、第1回市民公開講座、特別講演「理学療法士による政治参加の現状と今後」、協賛企業のピーアールや展示など多彩な内容となり、約300名の方々が参加し滞りなく終了することができましたことをここにご報告いたします。

近年、高齢化が進み茨城県は高齢化率が約23.8%の超高齢社会となっており、約20年後には3人に1人は高齢者となることが予測されています。急激な高齢化に伴い生活習慣病も年々増え、高齢者の6割以上は生活習慣病に罹患していると言われていています。そしてその中でも糖尿病は増加の加速が予測され、また心血管疾患のリスクを高め、神経障害、網膜症、腎症、足病変といった合併症を併発し、社会経済的活力や社会保障資源に多大な影響を及ぼすため重要視されています。

私達理学療法士は、生活習慣病に対して積極的に関わる責務があります。運動療法の効果を科学的に立証し、有病者に運動の目的やメリットを十分理解していただき、運動を継続してもらう必要があります。そのためには、心理的サポートを含め様々な工夫をしなくてはなりません。そのような理由から今回の学会のテーマを「生活習慣病の運動療法」としました。

基調講演では、臨床で生活習慣病に関わり、実際に運動処方されている国際医療福祉大学三田病院リハビリテーション科部長草野修輔医師をお招きし、運動療法の方法やリスク管理についての具体的な説明および関連した病態としてのロコモティブシンドローム、サルコペニアについてもお話していただきました。

生活習慣病に対する運動療法が臨床の場において、もっともっと実践され、そして有病者自身による自己管理能力が高まり、健康で暮らせる「健康寿命」が延びることを切に望みます。

次に作文コンクールですが、テーマは「理学療法に想うこと」でした。趣旨は作文コンクールを通して、「理学療法」についての理解と関心を深め、これからの「理学療法」に対する社会的認識を高めるための啓発が目的です。多くの応募があり、入賞者には賞状と副賞が贈呈されました。

市民公開講座では、「骨粗鬆症について」の講演が行われました。転倒予防や廃用症候群

のお話がとても分かりやすく説明され、ご理解いただけたのではないのでしょうか。また実際に片脚立位時間などの実技が行われ、80名程の一般市民の方々がとても楽しそうに参加されていたのが印象的でした。

特別講演では、保健・医療・福祉の現状と課題が示され、理学療法士の展望についての話を拝聴いたしました。超高齢社会を迎え、地域リハビリテーションが拡充されていく中、私達理学療法士はどうあるべきか？現状に満足することなく外（社会）に向けて発信しなくてはならない。課題に対して常に追求する「志」が必要だということなど、改めて考えさせられました。

演題発表では、今回はポスター発表をなくし口述発表だけにして演題数を限定したため、最終的には102題となりました。また例年より質疑応答時間を長く設定し、フロアからの活発な質問や意見ができるようにしました。そのため、多少様々な意見が出て討論という形になった演題もありましたが、まだまだ発言が少ないように思われます。特に若い理学療法士は場慣れが必要かも知れません。今回だけでなくこれからも質疑応答時間をなるべく長くし、皆で参加し活発な意見交換が行われる演題発表となることを願います。

協賛企業の機器展示・スタンプラリーは、参加業者は9社（15名）で、スタンプラリー参加者は40名（7社賞32名、5社賞8名）、企業ブースの来客者数は延べ355名となり活況を呈していました。景品も「針なしステープラー（ホチキス）」や「こすると消える蛍光ペン」・「卓上カレンダー」など多彩な品揃いで参加者はとても喜んでいました。私も色々歩き回っているうちにあっという間に時間が経過し、閉会の時間となりました。

学会の後、水戸市役所近くの韓国家庭料理タンポポで忘年会が行われ、協会理事や学会スタッフそして若手の理学療法士総勢約80名が集まり、皆が和気藹々と楽しい時間を過ごしました。また、ビンゴゲームやクイズなど盛り沢山の催し物があり、私も久しぶりに若い人達と一緒にゲームなどをして楽しく過ごすことが出来ました。

最後になりますが、当日は風が強く寒い1日で朝早くからの設営や準備、また外で駐車場案内などされていたスタッフの方々、どうもありがとうございました。

これからも皆で協力し合い、茨城県理学療法士会が更に発展するためにお互い頑張っていきたいと思います。



《第16回茨城県理学療法士会印象記》

黒澤由佳（榎日立製作所ひたちなか総合病院）

今回、「生活習慣病の理学療法」というテーマのもと、基調講演に草野先生、特別講演に衆議院議員の山口先生をお招きして、第16回茨城県理学療法士学会が開催されました。基調講演では、生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症など）の総論から、運動療法の基本・効果の機序まで講演していただき、改めて生活習慣病について考えることができる、貴重な機会となりました。また、今回の学会では、一般演題が全て口述発表となっており、一般演題を発表させて頂いた私にとって、とても有意義な場となりました。普段意見交換をできない方からの質問・アドバイスはとても勉強になり、改めて考える機会となりました。他の一般演題でも、質疑応答が盛んに行われており、このような場で、様々な方のご意見を頂くことは、今後理学療法士として働く上で、貴重な財産になると思います。

本学会を通して、たくさんの事を学ぶことができ、良い刺激にもなりました。また、お忙しい中、そして非常に寒い中、働いていただいた、本学会の運営スタッフの皆様には感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

小林弘明（石岡市医師会病院）

今回、第16回茨城県理学療法士学会に参加させて頂き、症例発表を行わせて頂きました。症例発表会への参加は今回が3回目でありましたが、毎年この日が近くなると緊張感で一杯になります。また、口述での発表は初めてで不安もありました。発表にあたり、いかに分かり易く相手に自分の伝えたい事を述べるか、また、パワーポイントの色合いやアニメーションなど工夫しました。しかし、発表をすると毎年反省点ばかりで相手にわかり易く伝える難しさを改めて痛感しました。

また、今年度は質疑応答時間が5分となった事で数多くの御意見を頂くことが出来ました。自分自身では気が付く事が無かった視点から御意見を頂き、今後の臨床に活かしていければと思います。また、私の病院は慢性期の患者様が多いですが、急性期や回復期、老健施設など様々な視点から御意見を伺う事で考え方や捉え方の違いを学ぶことができ、視野を広く持てるようになりました。

本学会を通じて数多くの御意見を頂き、大変有意義な時間でありました。今後の課題など発見も多くあったので、臨床の場にも繋げていけるように努力していきたいと思います。

清水望未（筑波記念病院）

今回、第16回茨城県理学療法士学会に参加させて頂きました。はじめは、理学療法士1年目にこのような規模が大きな症例検討会などは難しいと思っていました。それでも、ここでの発表を経験する事によって、今後の臨床で大きく変わるといふ、先輩方のアドバイスがあり、参加させて頂くことにしました。

私は「胃がん術後に低栄養を呈した患者に対する理学療法を経験して」という演題で口

述発表させていただきました。取り組む過程で、自分自身の評価の甘さや、このようなアプローチの方法もあるのかと、気づくことができました。一人の患者様を深く知り、調べ、考察することで、多くのことを学ぶことができました。

また今回の発表を通して他の発表者の方々や、座長の方との意見交換やアドバイスをいただけたこと、今後の課題として、いかに低栄養状態の患者様に、運動量・負荷量の調整をしていくのかという課題もみつけることができた事が、一番の収穫であったと思います。

今後もこの学会で経験できたことを活かして、患者様にとって最善の理学療法を提供できるように努力していきたいと思えます。

《渉外部企画》

渉外部長 直井洋明（土浦市役所）

1) 企業PR

参加企業：株式会社 幸和義肢研究所、株式会社 ロングライフ、
株式会社 日本メディックス、フランスベット株式会社

2) 機器展示・書籍販売企業 スタンプラリー

参加企業：賛助会員：株式会社 幸和義肢研究所、株式会社 ロングライフ

リハビリ機器企業：ミナト医科学株式会社、株式会社日本メディックス、
伊藤超短波株式会社、フランスベッド株式会社、酒井医療株式会社、
日本光電東関東株式会社

書籍企業：株式会社 志学書店

内容：機器展示・書籍販売企業【計 9 社】を回るスタンプラリーを行いました。当日参加者数は 40 名（7 社賞 32 名、5 社賞 8 名）で、企業来客者数は延べ 355 名にのぼり、参加者に好評でした。スタンプラリーの賞品は、参加企業様から提供していただきましたが、特に角度計やオムニバンド（訓練用ゴムバンド）などの賞品が好評でした。

また、参加企業の方々からも「多くの理学療法士とお話しできてよかった。機器展示企業としては、やりがいのある学会でした。」等の感想が聞かれ、好評でした。当初の目的である会員と賛助会員等との交流・意見交換がある程度達成できたのではないかと思います。

スタンプラリーに参加していただきました会員の皆様、ありがとうございました。来年度は、今年の実績を踏まえ、さらにパワーアップした企画を用意したいと思えます。



「理学療法の日」作文コンクール表彰式

公益事業推進部部長 村田康成（石岡循環器科脳神経外科病院）

去る12月9日、第16回茨城県理学療法士学会の併催事業として、平成24年度「理学療法の日」作文コンクール表彰式を茨城大学水戸キャンパス講堂にて実施致しました。受賞者12名のうち10名が出席され、滞りなく終了しております。当日ご参加、ご協力いただいた士会員の皆様においては、大変感謝しております。本当にありがとうございました。

中・高校生の部、最優秀賞の大山萌様の受賞コメントを以下に示します。

作品名：「埃をかぶった車椅子」

受賞と聞いてびっくりしましたが、とてもうれしいです。家族もじいちゃんも笑って「おめでとう」と言ってくれました。病院に行くことなんてなかったじいちゃんが、一瞬の事故で怪我をしてしまい、本人はもちろん、家族も最初は戸惑ってしまいました。何より、今まで簡単にできたことができなくなってしまったじいちゃんの落胆は大きく、そんな時に理学療法士の先生と出会いました。先生には、身体だけでなく、心のリハビリもしっかりとサポートしていただき、とても感謝しています。

私もいずれは社会に出ます。ただ漠然と人の役に立ちたいと考えていた私に、明確に将来の目標ができました。病気や怪我から立ち直り、希望を見いだせるように導く理学療法士を目指し、がんばりたいと思います。この度は、ありがとうございました。



第1回市民公開講座

「骨粗鬆症について～骨を丈夫にして、楽しい運動、健康維持を目指して～」

地域医療福祉推進部次長 石塚晴美（茨城西南医療センター病院）

12月9日に第16回茨城県理学療法士学会と同会場の茨城大学講堂において、平成24年度第1回市民公開講座が行われました。講師は土浦協同病院の橋本貴幸先生で「骨粗鬆症について～骨を丈夫にして、楽しい運動、健康維持を目指して～」をテーマに理学療法の紹介、骨粗鬆症の病態、発症頻度や原因、骨粗鬆症と転倒・骨折の関係、年代別に見た特徴や食生活、転倒予防について講演して下さいました。公演中は転倒予防に重要な柔軟

性、筋力、バランスに関する実技を交えた講座で、受講者の皆さんも一緒にストレッチや片脚バランスを体験しながら真剣である一方、笑顔が見えるなど楽しく受講されていました。講座が終わった後も、何人もの方が橋本先生の下へ質問に訪れ、地域の方の健康に対する意識の高さが伺えました。

私自身も介護予防キャラバンを通して一般の方へ運動や体操などをお伝えすることはありますが、橋本先生のお話は非常にわかりやすく、無理なくすぐ実践できる内容が盛り沢山で、今回お聞きした事柄を是非参考にさせて頂きたいと思いました。また、多くの方に聞いて頂きたい内容でしたので、今後も市民公開講座を行う際は、是非会員の皆さんから地域の方に参加を勧めて頂ければと思います。



介護予防キャラバン in 水戸

地域医療福祉推進部 安藤綾佳（介護老人保健施設ライブリーライフ那珂）

12月9日に茨城大学水戸キャンパスにて、介護予防キャラバンが行なわれました。今回は、平成24年度『理学療法の日』作文コンクール表彰式、第1回市民公開講座も同時に開催されました。また、茨城県臨床検査技師会協力のもと骨密度測定も実施されました。

年齢層としましては、10代～80代の方のたくさんの方に体力測定やリハビリ相談を実施し、ご自分の体と向き合っただけの機会を作るきっかけになったと思います。また、年配の方は骨密度測定ができるということで、測定結果から運動の必要性や、食習慣の改善を見直すきっかけになったのではないかと思います。今後もこのような機会を増やし、市民啓発に繋げていきたいと思っています。



学会懇親会・忘年会

厚生部次長 青木葉尚子（笠間市医師会訪問看護ステーションふきのとう）

平成24年12月9日（日）、韓国料理タンポポ（水戸）にて学会懇親会兼忘年会を開催いたしました。今年は特別ゲストとして山口和之先生をお迎えし、約70名の参加者で盛大に行われました。

恒例のゲームでは「理事の中で一番は誰？」と題し、斉藤会長はじめ、佐藤連盟会長など、理事の方々を中心にステージで対戦していただき、他の会員が勝者を当てる、という全員参加型のゲームを企画しました。旗揚げゲームや後だしジャンケン、クイズなど、予想以上に勝負にこだわった熱い戦いが繰り広げられました。普段は見られない意外な？一面も見られ、理事の方々を身近に感じるひとときとなりました。

景品と言えば…佐藤連盟会長！ 昨年に続き今年も当てています！！常連ですね。



理学療法士の国会議員として職域拡大や福島の復興にご尽力されてきました前衆議院議員山口先生からは、理学療法士のこれからの期待の持てる、熱いメッセージを頂きました。厚生部では、来年の新人歓迎会・忘年会も、楽しいイベントを企画していきます。理事の



先生や他施設の会員との交流の場としても活用していただけたら嬉しいです。

セラピスト同士が顔と顔の見える関係で連携をとりながら仕事をすることは、リハビリテーションを受ける方々にとっても有益になると思います。ぜひご参加をお待ちしています。みんなで茨城を盛り上げていきましょう♪

January

12日～14日

理学療法士講習会応用編

テーマ：成人片麻痺の運動療法

会場：茨城県立医療大学附属病院

講師：宮本省三先生 宮田昌夫先生 田村陽子先生

参加者：29名

生涯学習部長 千葉浩市（つくばセントラル病院）

本講習会は成人片麻痺患者に対する理学療法評価および治療について3つの治療手技（PNF、生体心理学的概念に基づいた運動療法、認知運動療法）を取り上げ、その理論的背景に関する講義・実技を著名な3名の理学療法士を招いて行いました。また、実際に患者デモを行い臨床での治療展開のイメージを習得しました。

24日

第3回茨城県看護協会 「まちの保健室」との共同事業

場所：鹿島ショッピングセンターチェリオ内 「ジーコ広場」

内容：まちの保健室・リハビリ相談ブース

相談数：20件

スタッフ：村田康成氏、三谷健氏、杉水流健氏

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

今年度3回目になる茨城県看護協会「まちの保健室」との事業を、鹿行地区でリハビリ相談ブースを設置いたしました。今回の事業では、鹿行地区会員のお力をお借りして実現いたしました。鹿行地区の保健室には、次年度も定期的に関わることを検討しております。

《まちの保健室に参加して》

杉水流健（鹿島病院）

先日の鹿行地区で行われました「まちの保健室」に参加して、リハビリテーションを身近に感じていただくには、このような活動がとても大切だと感じました。リハビリテーションという言葉をご存じの方でも、具体的な内容までは十分に浸透していない印象がありました。後遺症に対する相談や介護者に対する指導も大切な役割と考えます。加えて、一般の方を対象にすること、看護師が血圧測定や体脂肪を測定されていることを踏まえると、血圧や体脂肪が高めの方に対するリスクの予防的指導を実施できるとさらに良いのではないかと感じました。生活習慣病を抱えていても、運動に対する意識は決して高くないと感

じます。そのような方々にも運動の必要性を伝え、合併症予防も大切であると思います。定期的な実施に向け、継続的に支援ができる方法等も検討してよりよい事業ができるよう今後も積極的に足を運びたいと思います。

28日

茨城県地域支え合い体制づくり事業説明会

社会・職能局長 沼尻一哉（茨城西南医療センター病院）

この度、「平成24年度茨城県地域支え合い体制づくり事業」として本会が補助金の通知を受けた「共同利用型訪問リハビリテーションステーションおよび訪問リハビリテーションサポートセンター新規整備事業」の説明会を1月28日、2月5日、3月5日の3日間に分けて開催いたしました。開催にあたり斉藤会長より以下の趣旨説明がありました。

今後在宅での療養者が増加することが予測されており、自立した生活を支援する訪問リハビリテーションサービスの必要性が望まれています。他の居宅サービスと比べて事業所は圧倒的に少なく、地域格差も大であります。また様々な在宅でのリハニーズに対する相談機能も現状では十分とは言えません。そこで訪問・通所をベースに地域の自立支援を促す拠点として機能を果たす役割として、北茨城市において「地域自立支援センター」のモデル事業展開を検討しています。まずは、北茨城市に住民が共同利用できるリハサービスの拠点整備を行い①相談・生活支援拠点の整備をする。②家屋に向く訪問リハに加え、施設での健康支援・介護・障がい予防を行う。ことなどを主な活動として考えています。また、県内の訪問リハに関するニーズをワンストップで吸収する「訪問リハビリテーションサポートセンター」をリハ資源が充実しているつくば市に1箇所整備し、県内の訪問リハのニーズに対応する拠点としたいと考えています。この拠点の運営はつくば市内の2・3事業所が共同で行う予定です。具体的な活動内容は、訪問リハに関する相談、事業所の紹介・取り次ぎ、サービスの受け方・疑問・苦情などに対する電話相談、などです。さらに本会の地区ブロック機能に対応するランチを10か所程度確保し、拠点とネットワーク体制を構築します。この拠点ならびネットワークの整備により訪問リハに関する相談窓口が明確化し、資源不足や地域格差により表面化されていく、分散され、漏れていた訪問リハニーズを逃がさないばかりか、各訪問リハ事業所等の調整も担えるため、効率的な訪問リハサービス、つまり多くの県民に訪問によるリハサービスの提供が期待できます。その結果として、県全域において介護予防ならびリハ機能におけるまちづくり・地域力が向上することが見込まれます。

このような構想をもとに、今後、地域支え合い体制づくりを段階的に整備・推進していきたいと考えております。

31日

第2回茨城県臨床実習連絡協議会

場所：アール医療福祉専門学校

参加者：学校教員5名、施設理学療法士6名 計11名

卒前教育部長 浅野信一（つくばセントラル病院）

今回は県内教育機関臨床実習に関する情報共有化として、県内5校の臨床実習概要より①総合臨床実習の目的②実習中課題③実習終了後課題④評価表の内容についての比較検討を実施しました。

活動を通して、臨床実習標準化による教育機会および評価、指導の公平化、指導者教育の効率化、実習事務業務の平易化を図ることを目的としています。

February

17日

茨城県臨床実習指導者研修会

会場：茨城県立医療大学

参加者：39名

卒前教育部長 浅野信一（つくばセントラル病院）

講義Ⅰ：「臨床実習指導者総論・教育スキル」 講師：斉藤秀之氏

講義Ⅱ：「臨床実習を通して学んだこと」 講師：縄井清志氏

ワークショップ：「臨床実習指導上の留意点」

臨床実習指導者の教育・指導力向上を目的として今年度から開始しました。

受講者は講義（講演）を熱心に聴講し、その後のグループワークでも活発な意見交換をしていました。

継続的に実施することで優れた指導者を輩出し、県内における臨床実習の質向上につなげていきます。

20日

第2回賛助会員等との意見交換会

場所：社団法人茨城県理学療法士会事務所

参加者：23名（賛助会員4社4名、リハビリ機器業者4社6名、茨城県理学療法士会8名、茨城県理学療法士連盟1名、水戸近隣施設代表者等4名）

渉外部長 直井洋明（土浦市役所）

内容：賛助会員などから士会への意見・要望のヒアリング。第16回茨城県理学療法士学会の渉外部関係の報告。懇談などを行いました。

March

16日

介護予防フェスティバル in 北茨城2013 第2回市民公開講座

場所：北茨城市市民ふれあいセンター

内容：講演会、介護予防イベント

参加者：228名

公益事業推進部 次長 井上克也（鹿島病院）

今回の北茨城での介護予防フェスティバルは、震災復興の為に我々理学療法士として何かできることはないかという想いから、約1年間の企画、準備を経てようやく実現できた事業です。

午前の講演会では、茨城県立健康プラザの大田仁史先生より「介護予防とシルバーリハビリ体操」というテーマでご講演いただきました。高齢者の方々が自立した生活を送るための家族や高齢者自身による「自助」、地域社会で支え合う「共助」の必要性など高齢化に伴う介護予防の重要性をお話しいただきました。シルバーリハビリ体操の実演を交えながらのユーモアあふれる、笑いの絶えない講演で、参加した一般市民の皆様が熱心に耳を傾けていたのが印象的でした。

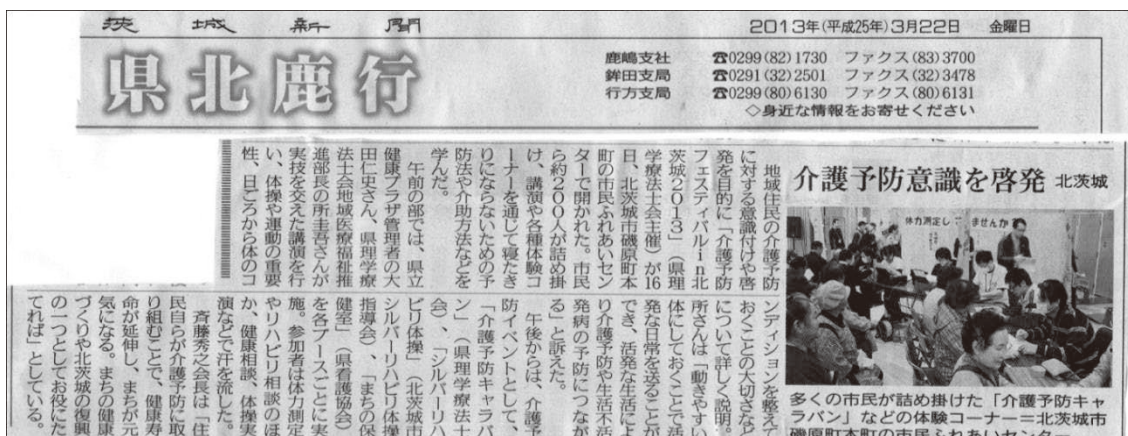
本会所属所圭吾氏の「からだの豆知識と調整のヒント」というテーマの講演では、生活不活発病についてとそれにリンクした体のコンディション作り、調整方法など実技を交えながらお話しいただきました。こちらは理学療法士としての知識、技術、専門性をしっかりとアピールできた素晴らしい時間だったと感じました。

午後の介護予防イベントでは、本会と共催団体である茨城県看護協会と北茨城市シルバーリハビリ体操指導士会との協働事業として実施しました。本会の介護予防キャラバンでは、体力測定やリハビリ相談を実施し、3土会合計で228名という多くの参加者を招き、これまでにない盛況ぶりとなりました。受付、測定、データ入力、結果説明それぞれの担当21名がフル稼働で対応し、何とか大きなトラブルもなく終了することができました。まさにこれまでの活動、経験がなければ乗り越えられない状況だったかと思います。

今回の事業に参加させて頂き、少しでも北茨城の方々のためになればと思っていましたが、北茨城の方々がとても元気で頑張られており、逆に元気づけられてしまうほどでした。今回の事業により北茨城の方々と接すること、地区会員との連動など今後につながる有意義な時間だったと思いました。



「介護予防フェスティバルの記事が6月22日付の茨城新聞（県北鹿行）に掲載されました！」



16日、17日

茨城県訪問リハビリテーション実務者研修会

会場：茨城県職業人材育成センター

参加者：69名

生涯学習部長 千葉浩市（つくばセントラル病院）

今回で2回目となる研修会では、社会福祉士や介護支援専門員と、リハ専門職以外から初の参加がありました。また、講師をして頂いた医師や看護師も聴講に参加をして下さいました。相談支援専門員からの「障害者・障害児の他職種連携」というテーマでのグループワーク討論では、普段悩んでいる参加者も多く、とても有意義でした。

24日

第 39 回定期総会



鹿野幸恵（茨城西南医療センター病院）
2013年3月24日につくば国際大学で第39回社団法人茨城県理学療法士会定期総会が開催されました。社団法人茨城県理学療法士会正会員数1556名、定足数776に対し、総会出席者数268名、委任状785名の計1053名で審議を行いました。

総会では、①平成25年度事業計画、②平成25年度収支予算、③平成25年度役員改選の3項目について審議が行われ、承認さ

れました。

今回も多くの方の出席があり、次年度に向けての計画や、公益社団法人になるにあたって新たな講習会の開催など新しい事業の話等について、説明・意見交換がされました。

第 13、14 回研修会

佐野綾香（いちほら病院）

第13回テーマ：『労働基準法 - 労働契約、労働時間などについて』

講師：李怜香先生（李社会保険労務士事務所）

受講者数：203名



社会保険労務士である李先生より、知っておきたい労働の基礎として講演をして頂きました。労働基準法における基準は最低限の基準であり、労働条件の実効性を確保するために各事業所では独自の制度を設けられているが、労働基準法についての知識は少なく会社などに属する労働者である私たちは、労働契約や労働時間など知る必要があると李先生は仰っていました。

李先生から「就業規則を見たことがある、もしくは就業規則という言葉聞いたことがありますか」との質問があった際、講演を聞かれている参加者の半数が無いと返答。就業規則は労働者と使用者間のルールブックのようなものであり、職場秩序の維持・作業環境の向上のため、また退職・賃金・退職金などのトラブルを防止するために双方が良く理解

する必要があると李先生は仰っていました。

労働者である私たちが安全に安心して働くためには、就業規則の必要性を理解・活用して行く必要があるということ学ぶことができた研修となりました。

関観樹鑑（鹿島病院）

第14回テーマ：『これからの臨床実習教育（本学が目指す臨床実習教育）』

講師：大橋ゆかり先生（茨城県立医療大学）

受講者数：263名

私は4月から2年目になる理学療法士です。来年度からケースバイザーをつとめさせて頂く事になっており、本テーマは非常に興味深いものでした。

本講義ではPBLやOSCEといったシミュレーション実習の事やレポートは「指導者ではなく学校が確認する。」といった私には馴染みの少ない実習形態を知る事が出来ました。私自身のイメージでは実習中、学生を交えた介入ではその場で指導者が学生に言葉で指導し、間違いがあれば正すものでした。しかし大橋先生のおっしゃる通り、その状況では患者様がかやの外になってしまいます。そのような事がない様に指導者は、言葉ではなく動作で学生に伝え、言葉で伝える際は患者様に状況を伝える事で、学生にも伝わるような方法をとる。という事でした。

このように患者様を一番に考えている実習のあり方は、大変共感を覚え、勉強になりました。

今回学んだ「学生+指導者で常に正しい医療行為を行う」「何よりも患者様に不利益を与えない」この言葉を忘れずに、患者様に迷惑をかけず、学生にとって充実した実習は何かを考え今後の学生指導に臨んでいきたいと思えます。



その他の事業

理事会・監査

4月19日	第120回理事会	
	平成23年度期末監査	つくば国際会議場
6月14日	第121回理事会	茨城県立医療大学
8月15日	第122回理事会	茨城県保健衛生会館
10月18日	第123回理事会	
	平成24年度中間監査	茨城県保健衛生会館
12月21日	第124回理事会	茨城県保健衛生会館
2月15日	第125回理事会	茨城県保健衛生会館

医療および医療保険に関する事業

1. 小児療育に関する事業

- ・水戸特別支援学校への外部専門家（理学療法士）派遣事業

期日：平成24年6月27日、7月11日、8月7日、9月12日、10月10日、
11月14日、12月12日

平成25年1月9日、2月13日、3月13日（計10回）

場所：水戸特別支援学校

派遣：高橋千晶氏

・「茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会」への協力事業（世話人派遣含む）

- ・平成24年度第1回世話人会

期日：平成24年9月26日

場所：ほうしゅん（筑波記念病院内）

推薦世話人：石川公久氏

2. 「茨城県回復期リハビリテーション病棟の会」への協力事業（世話人派遣含む）

- ・平成24年度第1回世話人会

期日：平成24年5月10日

場所：茨城県立医療大学附属病院

推薦世話人：森田英隆氏

- ・平成24年度総会・研修会

期日：平成24年6月30日

場所：茨城県立医療大学

推薦世話人：森田英隆氏

- ・第2回世話人会

期日：平成24年11月11日
場所：(株)日立製作所ひたちなか総合病院
推薦世話人：森田英隆氏

福祉に関する事項

1. 市町村社会福祉協議会への協力事業
2. 高次脳機能障害者支援システムへの協力事業
 - ・「高次脳機能障害者の支援と連携の会」への協力（世話人派遣含む）
 - ・平成24年度総会

期日：平成24年6月10日

場所：茨城県立健康プラザ

推薦世話人：井上克也氏

- ・平成24年度第1回世話人会

期日：平成24年6月10日

場所：茨城県立健康プラザ

推薦世話人：井上克也氏

- ・第2回世話人会

期日：平成24年12月8日

場所：茨城県立医療大学

推薦世話人：井上克也氏

3. 地域包括支援センターとの連携の検討

介護および介護保険に関する事項

1. 茨城県介護予防フォーラムへの協力
2. 茨城県立健康プラザ「介護予防体操相談支援者制度」への協力事業

期間：平成24年4月1日から平成25年3月31日

内容：「介護予防体操相談支援業務」としてシルバーリハビリ体操3級指導士養成講習の受講及び研修（8回）、シルバーリハビリ体操3級指導士養成講習での神経講義、研修、講座補助、介護予防体操研修補助

活動期日：（研修）平成24年4月27日・6月28日・7月5日・7月12日・9月10日・9月13日・9月24日・10月1日・10月5日（会場：茨城県立健康プラザ・神栖市保健福祉会館）

（介護予防体操研修）平成25年2月20日・2月22日・3月1日・3月7日・3月22日（会場：茨城県立健康プラザ）

（シルバーリハビリ体操指導士3級養成事業 地域開催講師）

平成24年 6月 4日：結城市市民文化センター

6月 5日：小美玉市玉里保健福祉センター
6月 7日：結城市市民文化センター
7月 9日：守谷市国際交流センター
7月13日：河内町保健センター
7月27日：特別養護老人ホーム サンホーム真壁
9月27日：那珂市総合福祉センターひだまり
10月 1日：那珂市総合福祉センターひだまり
10月29日：取手市福祉交流センター
11月 2日：つくばみらい市谷井田コミュニティセンター
11月30日：大子町保健センター
11月30日：利根町布川地区コミュニティセンター

平成25年 2月15日：石岡市ひまわりの館

(介護予防体操相談支援者会議)平成24年8月24日(会場：茨城県立健康プラザ)

派遣：所圭吾氏・藤田義隆氏・渡邊勸氏

3. 地域支援事業への協力・整備

・河内町1次予防教室「はっぴーらいふ教室」の開催

期日：(打合わせ会議)平成24年6月4日、6月8日

(教室)平成24年6月11日～10月1日までの月曜(全13回)

(同窓会)平成25年3月13日

場所：河内町保健センター

内容：各種測定・健康講話・集団指導・個別指導等

派遣：所圭吾氏

・河内町2次予防教室「元気アップ・はつらつ教室」の開催

期日：(打合わせ会議)平成24年10月24日

(教室)平成24年11月5日～平成25年3月6日までの月曜・水曜(全26回)

(同窓会)平成24年10月3日・10月10日

場所：河内町保健センター・つつみ会館

内容：各種測定・健康講話・集団指導・個別指導等

派遣：所圭吾氏

4. 訪問リハビリテーションに関する事業の検討

「茨城の訪問リハビリテーションを考える会」への協力事業(世話人派遣含む)

・平成24年度総会・研修会

期日：平成24年7月25日

会場：イーアスつくば イーアスホール

推薦世話人：押野泰史氏

・平成24年度第1回世話人会

期日：平成24年9月19日

場所：ほうしゅん（筑波記念病院内）

推薦世話人：押野泰史氏

- ・特定非営利法人茨城県訪問リハビリテーション協議会設立総会

期日：平成24年10月6日

場所：ほうしゅん（筑波記念病院内）

派遣：押野泰史氏

- ・訪問理学療法に関する研修・啓発事業
- ・第3回訪問リハ・地域リーダー会議への会員推薦

期日：平成24年9月6日・7日

場所：タイム24ビル（東京都江東区）

推薦：押野泰史氏、三浦祐司氏

5. 賛助会員主催研修会等への協力

- ・(株)デベロ主催訪問入浴関連研修会への協力および発刊物の監修

地域医療福祉推進等に関する具体的方策と組織化

1. 圏域単位の理学療法士ネットワークに関する説明会実施

- ・鹿行地区

期日：平成24年6月29日

場所：小山記念病院

参加者：28名

- ・水戸地区

期日：平成24年9月1日

場所：水戸済生会病院

参加者：52名

2. 圏域単位の理学療法士ネットワークおよび連携体制の整備

その他の関連事項

a) スポーツ支援に関する意見交換会の開催

期日：平成24年7月12日・11月8日・11月26日・平成25年2月4日

場所：つくば市内

b) 講師派遣

- ・茨城県ケアマネジャー協会

研修名：平成24年度 実務者更新研修 テーマ「訪問リハビリテーション」

期日：平成24年5月26日・6月2日

場所：茨城県総合福祉会館（水戸市）

派遣：所圭吾氏

・茨城県福祉サービス振興会

① 研修名：「茨城県福祉用具専門相談員指定講習・茨城県福祉用具供給事業従事者研修」

場所：茨城県総合福祉会館（水戸市）

派遣：平成24年6月24日 直井洋明氏

7月 7日 金子哲氏

② 研修名：介護講座 介護技術・テーマ別研修「トランスファー」

期日：平成24年8月7日・12月7日、平成25年1月18日

場所：茨城県総合福祉会館

派遣：青木葉尚子氏、所圭吾氏、渡邊勸氏

③ 研修名：介護講座 介護技術・テーマ別研修「リハビリ的介護と職業病対策」

期日：平成24年12月14日

場所：茨城県総合福祉会館

派遣：所圭吾氏

2012年度 会員動向

庶務部 高橋千晶

1、正会員・賛助会員

正会員数 1516名 (2013年3月31日現在)

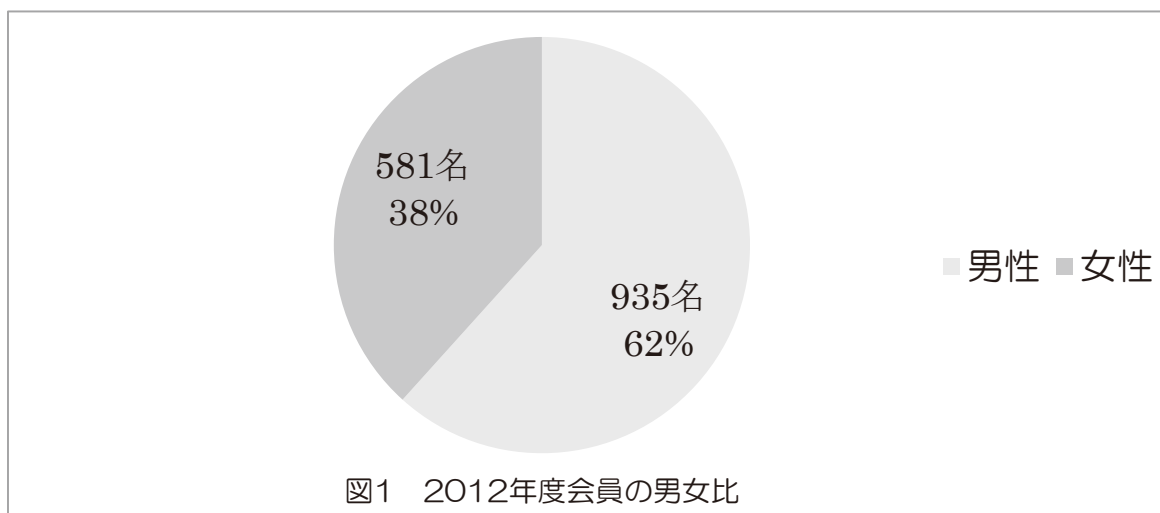
新入会 220名

転入 38名、 転出 64名、 県内移動 208名、 退会 13名、 休会 20名

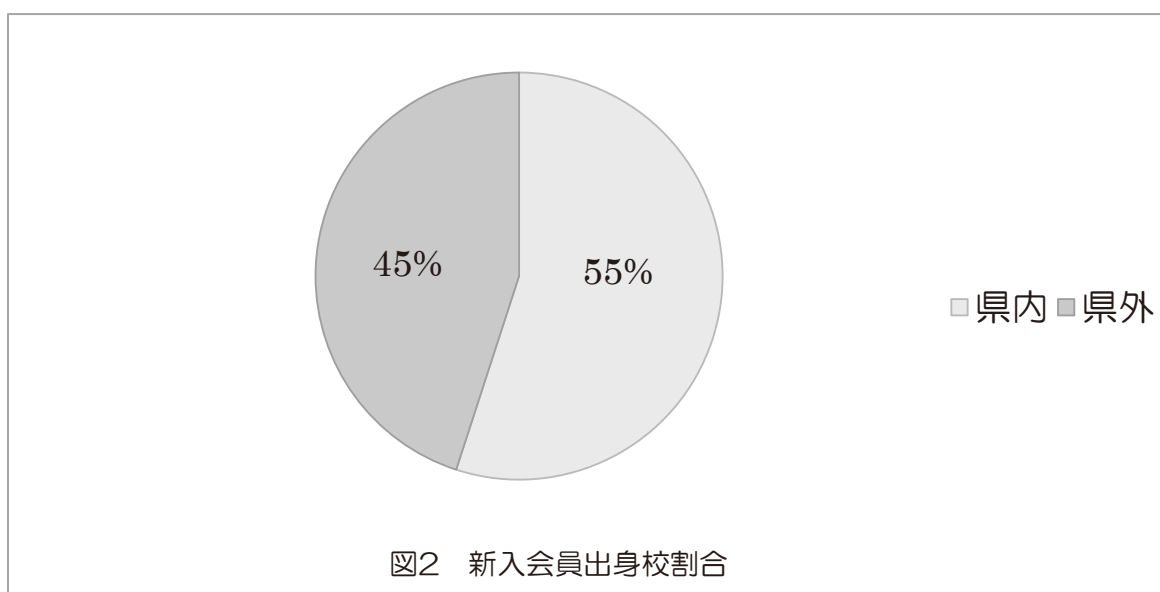
賛助会員 12社 (A会員 2社、 B会員 5社、 C会員 5社)

2、会員データ

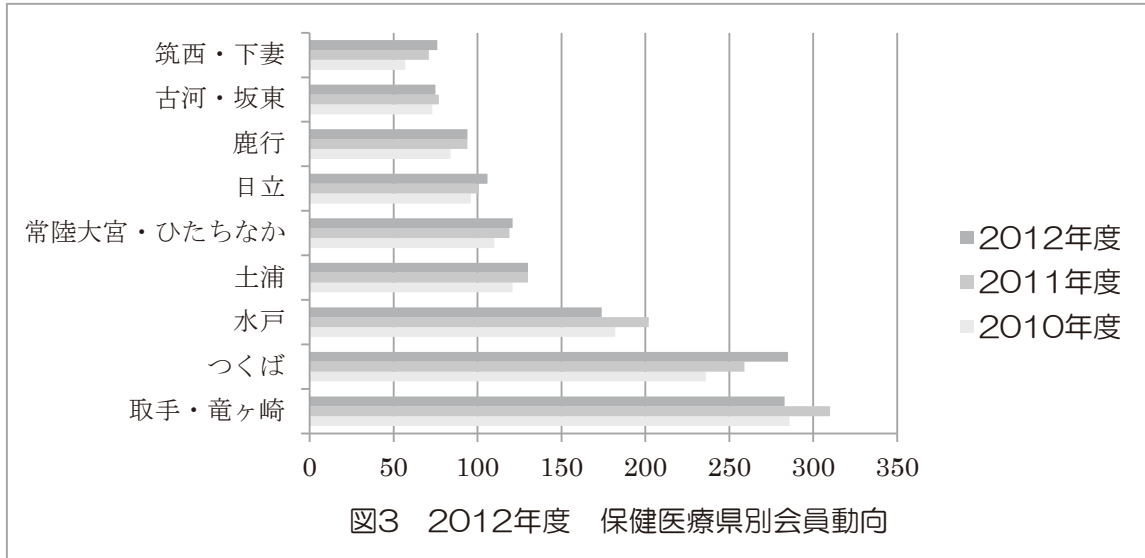
①会員の男女比 (図1)



②新入会員の出身校 (図2)

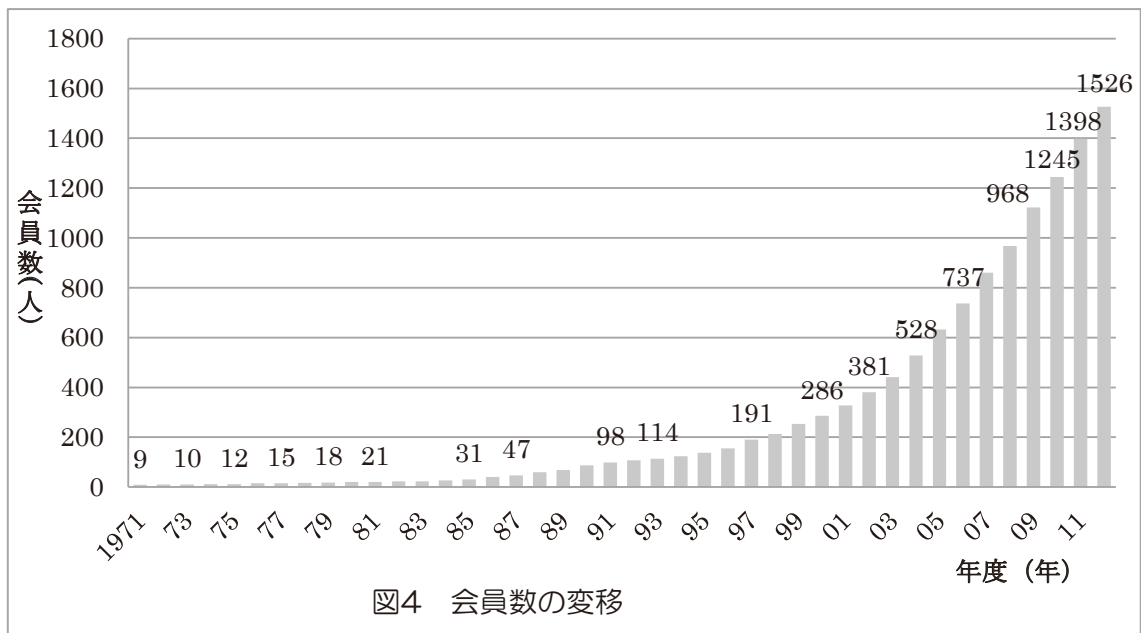


③医療圏別会員数（図3）



- 取手・竜ヶ崎**：龍ヶ崎市、取手市、牛久市、稲敷市、守谷市、阿見町、河内町、利根町、美浦村
- つくば**：つくば市、つくばみらい市、常総市
- 水戸**：水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、城里町、大洗町
- 土浦**：土浦市、石岡市、かすみがうら市
- 常陸大宮・ひたちなか**：常陸太田市、常陸大宮市、ひたちなか市、那珂市、大子町、東海村
- 日立**：日立市、高萩市、北茨城市
- 鹿行**：鹿嶋市、鉾田市、神栖市、行方市、潮来市
- 古河・坂東**：古河市、坂東市、五霞町、境町
- 筑西・下妻**：筑西市、下妻市、結城市、桜川市、八千代町

④会員数の変移（図4）



平成24年度役員・局長・部長・委員長・代議員名簿

役職名	理事	氏名	所属
会長	○	斉藤 秀之	筑波記念病院
副会長（筆頭）	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
副会長	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
事務局 局長	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
総務部 部長	○	大地 寛	(株)日立製作所日立総合病院
庶務部 部長		峯岸 忍	筑波メディカルセンター病院
財務部 部長		中山 陽介	茨城西南医療センター病院
厚生部 部長		有田 真己	介護老人保健施設ゆうゆう
就業支援部 部長		関口 春美	アール医療福祉専門学校
学術・教育局 局長	○	倉持 修	会田記念リハビリテーション病院
学会・研究部 部長		高尾 敏文	つくば国際大学
学術誌部 部長		鈴木 康文	つくば国際大学
生涯学習部 部長		千葉 浩市	つくばセントラル病院
卒前教育部 部長		浅野 信一	つくばセントラル病院
社会・職能局 局長	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
公益事業推進部 部長		村田 康成	石岡循環器科脳神経外科病院
地域医療福祉推進部 部長		所 圭吾	茨城県理学療法士会
渉外部 部長	○	直井 洋明	土浦市役所
業務推進部 部長		國谷 伸一	介護老人保健施設シルバービレッジ
広報局 局長	○	高橋 晃弘	アール医療福祉専門学校
会報編集部 部長		森田 英隆	いちほら病院
情報システム部 部長		中園 徳生	牛尾病院
理学療法啓発部 部長		石塚 保士	自宅
特定事業局 局長	○	金子 哲	水戸赤十字病院
定款組織検討委員会 委員長		浅川 育世	茨城県立医療大学
表彰委員会 委員長		前田 信道	JA とりで総合医療センター
業務改革委員会 委員長	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
選挙管理委員会 委員長		橋本 貴幸	総合病院土浦協同病院
監 事		黒澤 保壽	石岡循環器科脳神経外科病院
		橋本 英之	橋本会計事務所
日本理学療法士協会代議員		佐藤 弘行	(株)日立製作所日立総合病院
	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
	○	金子 哲	水戸赤十字病院
	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
		松井 弘子	取手北相馬保健医療センター医師会病院

茨城県下の理学療法士勤務先一覧

アール医療福祉専門学校	大洗海岸病院
会田記念リハビリテーション病院	大洗海岸コアクリニック
小豆畑病院	大久保病院
あべ整形外科	大森医院
阿見町役場	岡田整形外科クリニック
有田内科整形リハビリクリニック	小川南病院
安藤整形外科	小野瀬医院
石岡市医師会病院	介護老人福祉施設サンフラワーひたちなか
石岡循環器科脳神経外科病院	介護老人保健施設葵の園神栖
石岡第一病院	介護老人保健施設葵の園・常総
石島整形外科医院	介護老人保健施設あおぞら
石塚地方病院	介護老人保健施設あたごナーシングピラ
いちはら病院	介護老人保健施設アレーテル・つくば
茨城県立あすなろの郷	介護老人保健施設いちご苑
茨城県立医療大学	介護老人保健施設いなしきの郷
茨城県立医療大学大学院	介護老人保健施設えがお
茨城県立医療大学附属病院	介護老人保健施設エバークリーン
茨城県立健康プラザ	介護老人保健施設おおあらい
茨城県立こども福祉医療センター	介護老人保健施設大串の里
茨城県立中央病院	介護老人保健施設おはよう館
茨城県立リハビリテーションセンター	介護老人保健施設かすみがうら
いばらき診療所ひたち	介護老人保健施設くるみ館
茨城西南医療センター病院	介護老人保健施設けんちの苑水海道
茨城北西総合リハビリテーションセンター	介護老人保健施設ごぎょうの里
岩上記念病院	介護老人保健施設こすもびあ
うえの整形外科	介護老人保健施設コミュニティケアセンター縦山
上の原病院	介護老人保健施設さくら
植松整形外科耳鼻咽喉科	介護老人保健施設さくらがわ
植村整形外科クリニック	介護老人保健施設桜の郷祐寿苑
牛尾病院	介護老人保健施設さくら日立
牛久愛和総合病院	介護老人保健施設サングリーンやさと
牛久市役所	介護老人保健施設サンフラワー東海
うちはら慶友クリニック	介護老人保健施設シオン

介護老人保健施設シニア健康センターしおさい	鹿島アントラーズFC
介護老人保健施設シルバービレッジ	鹿島神宮前病院
介護老人保健施設寿桂苑	鹿嶋ハートクリニック
介護老人保健施設スーペリア 360	鹿島病院
介護老人保健施設すばる	鹿島労災病院
介護老人保健施設すみれ	柏田診療所
介護老人保健施設青嵐荘ケア・アシスタンス	勝田病院
介護老人保健施設セントラルゆうあい	かねこ整形外科クリニック
介護老人保健施設健田	(株)リハビリテーションクリエーターズ
介護老人保健施設田尻ヶ丘ヘルシーケア	神栖済生会病院
介護老人保健施設つくばケアセンター	神立病院
介護老人保健施設つねすみ	菊池整形外科クリニック
介護老人保健施設豊浦	北茨城市立総合病院
介護老人保健施設なでしこ	きぬ医師会病院
介護老人保健施設ノア	協和中央病院
介護老人保健施設はぁもにか	協和ヘルシーセンター
介護老人保健施設はなみずき	久保田病院
介護老人保健施設ひたちの森ハピネス	ケアサポート太田
介護老人保健施設フェニックス那珂	恵愛小林クリニック
介護老人保健施設プラタナスの丘	けやきの郷
介護老人保健施設フロンティア鉾田春の場所	県西総合病院
介護老人保健施設平成園	県南病院
介護老人保健施設ホワイトハウス千代田	県北医療センター高萩協同病院
介護老人保健施設マカベシルバートピア	古河市福祉の森診療所
介護老人保健施設まくらがの郷	古河赤十字病院
介護老人保健施設みがわ	古河病院
介護老人保健施設もえぎ野	国立病院機構霞ヶ浦医療センター
介護老人保健施設ゆうゆう	国立病院機構水戸医療センター
介護老人保健施設ライブリーライフ那珂	湖南病院
介護老人保健施設リヒトハウス北浦	小松整形外科医院
介護老人保健施設レイクヒルひぬま	小山記念病院
介護老人保健施設鹿野苑	済生会訪問看護ステーションかみす
笠間市医師会訪問看護ステーションふきのとう	サイバーダイン(株)

桜ヶ丘クリニック	つくば市障害者センター桜
さくら整形外科クリニック	つくば市障害者センター豊里
さくら水戸クリニック	つくばセントラル病院
産業技術総合研究所	つくば双愛病院
山王台病院	筑波大学
山王病院	筑波大学附属病院
JA とりで総合医療センター	筑波病院
慈泉堂病院	筑波メディカルセンター訪問看護ステーションいしげ
嶋崎病院	筑波メディカルセンター訪問看護ふれあい
志村病院	筑波メディカルセンター病院
下條整形外科	土浦協同病院
重症心身障害児施設水方苑	土浦市役所
城西病院	デイ&ショートステイサービス事業所フルール東海
松寿園リハビリケアセンター	デイケアさくらさくら
城南病院	デイケアひばり
城北病院	東海村立東海病院
身体障害者療護施設青嵐荘つくし園	東京医科大学茨城医療センター
青嵐荘特別養護老人ホーム	東前病院
聖麗メモリアル病院	特別養護老人ホーム 大野の郷
総合守谷第一病院	特別養護老人ホームもくせい
宗仁会病院	取手北相馬郡保健医療センター医師会病院
総和中央病院	永井ひたちの森病院
高萩それいゆ病院	なめがた地域総合病院
瀧病院	西間木病院
田尻ヶ丘病院	西山堂慶和病院
立川記念病院	西山堂病院
通所リハビリテーションゆんたく	根本医院
塚田整形外科	のかおい整形外科
筑波学園病院	ハートフルふじしろ病院
筑波技術大学	白十字総合病院
筑波記念病院	はすみ敬愛病院
つくば国際大学	秦病院
つくば市障害者センター茎崎	東取手病院

常陸大宮済生会病院	水戸済生会総合病院
日立製作所多賀総合病院	水戸市保健センター
日立製作所日立総合病院	水戸赤十字病院
日立製作所ひたちなか総合病院	水戸中央病院
ひたちの整形外科	水戸ブレインハートセンター
平間病院	湊整形外科・内科
広瀬医院	美浦中央病院
フルールとうかい	宮本病院
ブレインピア南太田	守谷慶友病院
プロスペクトガーデンひたちなか	八郷整形外科内科病院
訪問看護ステーション愛美園	やすらぎの丘温泉病院
訪問看護ステーショングリーンハウスみと	友愛記念病院
訪問看護ステーションこづる	結城病院
訪問看護にこにこステーション	(有)ともべ看護ケアセンター
訪問看護ステーション虹	ゆめみ野クリニック整形外科
訪問看護ステーションやまびこ	らいおんハートリハビリ温泉デイサービス栄光会
北水会記念病院	らいおんハートリハビリ温泉デイサービス川尻
鉾田病院	龍ヶ崎済生会病院
ホスピタル板東	凜区フィジカルケアセンターつくば
水海道さくら病院	わたなべ整形外科
水戸協同病院	渡辺病院

以上 240 施設 (50 音順)

平成24年度賛助会員一覧

社名	所在地	電話番号
種別A		
有限会社 明星メディカルサプライ	〒300-0812 茨城県土浦市下高津 3-4-8	029-826-1371
帝人在宅医療株式会社茨城営業所	〒305-0034 茨城県つくば市小野崎 260 - 1 ヒロサワつくばビル 2 F	029-855-7410
種別B		
株式会社 デベロ	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町 1744-2	029-247-2211
株式会社 幸和義肢研究所	〒300-4212 茨城県つくば市大白碓 341-1	029-875-7627
テクノブレイス 株式会社	〒347-0063 埼玉県加須市久下 1696-1	0480-66-1033
株式会社 ロングライフ	〒311-4164 茨城県水戸市谷津町細田 1-8	029-257-2345
有限会社 宮田製作所	〒185-0023 東京都国分寺市西元町 3-15-4	042-321-0684
種別C		
株式会社 茨城福祉サービス	〒315-0033 茨城県石岡市東光台 4-9-3	0299-28-1829
有限会社 ヨシフク	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町 1437-3	029-248-5307
株式会社 三陽	〒310-0852 茨城県水戸市笠原町 1510	029-243-1281
株式会社 東亜義肢	〒331-0062 埼玉県さいたま市西区土屋 515	048-622-6200
医療法人社団青潤会 青柳病院	〒310-0817 茨城県水戸市柳町 2-10-11	029-231-2341

賛助会員広告

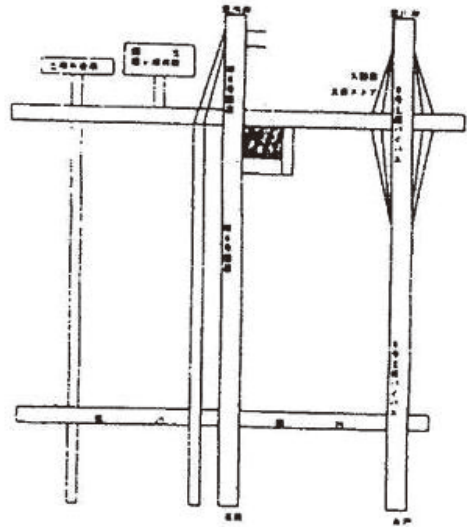
医療機器. 病棟備品. 福祉・介護用品

メイ セイ
有限会社 明星メディカルサプライ

〒300-0812 土浦市下高津3-4-8

TEL (0298) **26-1371**

FAX (0298) **26-1372**



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD(XX)A5X(TB)1201

コルセット・義肢・義足・補装具・車椅子・松葉杖 製作

有限
会社 **宮田製作所**

〒185-0023 東京都国分寺市西元町3-15-4

TEL.042(321)0684番 FAX.042(321)0692番

シルバーマーク認定業者

福祉用具販売・レンタル・住宅改修

株式会社 ロングライフ

本社 〒311-4164 茨城県水戸市谷津町細田1-8
TEL 029-257-2345 / FAX 029-257-2567

那珂営業所 〒311-0105 茨城県那珂市菅谷5487-4
TEL 029-295-7843 / FAX 029-295-0739

土浦営業所 〒300-0872 茨城県土浦市沖新田40-5
TEL 029-841-2422 / FAX 029-841-4404

結城営業所 〒307-0015 茨城県結城市鹿窪向原1305-20
TEL 0296-34-1033 / FAX 0296-34-1034



テクノブレイス株式会社

T E C H N O B R A C E



☆取扱品目☆

- ☒ 整形外科治療装具
- ☒ 整形靴・特殊靴
- ☒ リハビリテーション装具
- ☒ 義手・義足

一人一人に合わせて製作します。どうぞご要望をお聞かせください。

連絡先

〒347-0063 埼玉県加須市久下1696-1

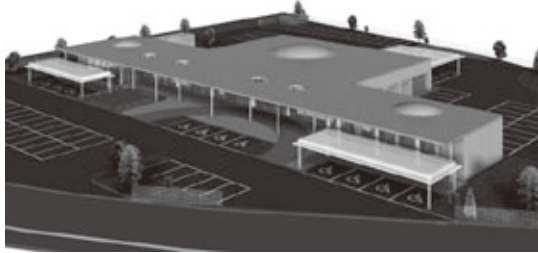
TEL 0480(66)1033 FAX 0480(65)0070

E-mail info@technobrace.com

第5回 TSUKUBA 福祉機器展 11月23日開催!



株式会社 幸和義肢研究所



TX 万博記念公園駅より車で3分

◆ 取扱品目 ◆

義肢・装具・座位保持装置・車いす・補聴器
コンフォートシューズ・福祉用具レンタル

<http://www.kowagishi.com> info@kowagishi.com
茨城県つくば市大白裕 341-1
TEL 029(875)7627 FAX 029(875)7628

介護予防支援車「さぼと」による 巡回型介護予防 アクティブスマイルプラン



筋レマシンの持ち運びを可能にした介護予防支援車「さぼと」



巡回型だからいつでも何処でも充実した設備で
介護予防教室の開催が可能です



本社 ☎310-0841 茨城県水戸市酒門町1744-2 ☎029-247-2211
大阪支店 ☎540-0004 大阪市中央区玉造2-3-17 アルマ・ビル301 ☎06-6945-1722

<http://www.develo-group.co.jp/>

快適介護のお手伝い



◎福祉用具レンタル・販売 ◎住宅改修 ◎ストーマ装具
明るく清潔なショールームでゆっくりとご相談ください

本社ショールーム

〒315-0033 石岡市東光台4-9-3
TEL (0299)28-1829
FAX (0299)26-8001

- 営業時間/AM9:00~PM5:00
- 定休日/土曜日・日曜日・祝日

介護ショップ ひまわり

〒309-1705 笠間市東平2-1470-677
TEL (0296)78-0128
FAX (0296)77-0477

- 営業時間/AM9:00~PM5:00
- 定休日/日曜日・祝日



介護保険指定事業所番号 第0870500022 〒315-0033 石岡市東光台4-9-3

株式会社 茨城福祉サービス

TEL (0299)28-1829
FAX (0299)26-8001

介護用品・福祉機器 販売・レンタル

有限会社 ヨ シ フ ク

茨城県水戸市酒門町 1437-3

TEL 029-248-5307

FAX 029-248-0086

*介護保険指定福祉用具貸与事業所

*住宅リフォームも併せてお気軽にご相談下さい



人と職場のベストソリューション

株式会社

三陽

水戸(029)243-1281 福島本社(0245)34-3155

いわき (0246)27-7631

郡山 (0249)59-3662

会津 (0242)24-5211

医療機器・臨床検査機器・ME機器・分析機器

〈関連会社〉

ホルター心電図解析センター

水戸カルディオセンター株式会社

TEL029(241)1155



TOUA-PO

株式会社 東亜義肢

〒311-0062 埼玉県さいたま市西区土屋 515 TEL 048(622)6200 FAX 048(622)6662

HP <http://www.toua-po.com/>

e-mail info@toua-po.com

医療法人社団青潤会 青柳病院

内科・外科・消化器科・循環器科・整形外科・等

〒310-0817 茨城県水戸市柳町2-10-11

TEL 029-231-2341

FAX 029-231-2350

URL www.aoyagi-hsp.com/



